

ココが生津小学校の英語のウリ！

目指す姿を明確にした学習到達目標を基に、言語活動の充実を図っています！

研究主題

コミュニケーション能力を高め、自他の伸びや変容を実感する児童の育成
～目的や場面、状況等を明確にした言語活動を通して～

主張点①

目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

学習到達目標		話すこと【やり取り】
6年生	自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分などを、既習表現を用いて即興的に質問したり質問に答えたりすること。	
5年生	自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分などを、聞き手の理解を確かめながら、既習表現を用いて質問したり質問に答えたりすること。	

7. 単元の評価規準	
知識・技能	思考・判断・表現
「What would you like?」「I'd like...」「How much is it?」「It's ~yen.」などについて理解している。 料理やその値段、量などについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	ALT のホームパーティーに呼んでいく料理や飲み物を準備するために、料理やその値段、量などについて、具体的な情報を聞き取っている。
丁寧な言い方で注文したり、会話したりする際について理解している。 上記の表現を用いて、注文や値段を正しく伝える技能を身に付けている。	ALT のホームパーティーに呼んでいく料理や飲み物を準備するために、ALT や参加者の好みの料理や値段などについて、簡単な辞句や基本的な表現を用いて、食べ物を注文し合っている。

目指す姿を明確にした学習到達目標に基づき、単元の目標を設定します。単元で「記録に残す評価」の規準を具体的に描くことで、教師も児童も単元を通して何ができればよいかを意識しながら毎時間歩むことができました。

主張点②

自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

「導入の場面において」

・HRTとALTのやり取りを見て、本時にコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解した。

TASK : ALT が開催するホームパーティーの参加者の好みに合った、料理や飲み物を注文しよう。



「活動→指導→活動→指導...の場面では」

- 「活動の場面」
条件に合った料理を考えながら注文する姿が見られた。
- 「指導の場面」
本当にホームパーティーの参加者に合う料理や飲み物になっているか（内容面）、丁寧な注文の英語表現が曖昧になっていないか（言語面）の指導を適宜した。



成果と課題

- 各学年の学習到達目標を見直し、単元の目標、教材観、児童観等を構造的に指導計画に示すことで、目指す児童の姿に向かって一貫性をもって指導に当たることができた。
- 目的、場面、状況を明確にした言語活動を充実させることで、児童自身が単位時間や単元の終末の姿に向かって、仲間と意欲的にコミュニケーションを図ることができた。
- 評価規準に合った中間コメントや指導の中身をより練っていく必要がある。

掲載資料

- ① 研究構想 ② 学習到達目標 ③ 全学年・全学級の本時の展開案

令和7年度 研究構想

児童の実態

- 課題に向かって自分から進んで活動したり、仲間と関わりながら活動したりする児童が多い。
- 目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを話そうとできる児童が多い。
- △既習表現から適切な表現を選んで話すことに困難を感じる児童も見られる。

学校の教育目標

なかまと
まごころこめて
すすんでやりぬく子

学びみがき 健康みがき
こころみがき

市の方針と重点

- 【外国語教育】
- 外国語を通じてよりよくコミュニケーションを図るための資質・能力の育成
- ・4技能5領域の力を系統的に育成するための指導計画の工夫・改善
- ・目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実
- ・伝え合う喜びや、成長を実感できる機会の充実

コミュニケーション能力を高め、自他の伸びや変容を実感する児童の育成 ～目的や場面、状況等を明確にした言語活動を通して～

(3年計画 2年目)

目指す児童の姿

低学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、既習表現を繰り返し用いながら、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自己の学びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、楽しく活動に取り組むことのできる児童
- ・自分の頑張りや仲間のよさを見つけることができる。

中学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、既習表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自己の学びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、粘り強く活動に取り組むことのできる児童
- ・仲間の考えを取り入れたり、よい姿を模倣したりすることができる。

高学年

- ・目的や場面、状況等に応じて、即興的に考えながら、既習表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童
- ・自他の伸びや変容を自覚し、自らの学習を調整し、粘り強く活動に取り組むことのできる児童
- ・仲間の考えを認めたり、自分の考えとの違いに気付いたりし、視野を広げることができる。

研究仮説

児童の実態に応じて目指す姿を明確にした目標と指導計画を基に、目的や場面、状況等を明確にした言語活動や指導過程、評価の在り方を工夫することにより、コミュニケーション能力を高め、自他の伸びや変容を実感する児童の育成につながると考える。

研究内容

1 目標・指導計画の工夫・改善

- 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善
 - (1) 児童の実態に応じた学習到達目標に向かう願う児童の姿の明確化
 - (2) 単元の見通しをもち、単位時間の役割を明確にした単元指導計画の工夫

2 指導過程の工夫

- 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実
 - (1) 目的や場面、状況等を明確にした活動の設定
 - (2) 児童が興味をもって取り組む教材の作成と活用
 - (3) ICTの効果的な利活用

3 評価と支援の在り方

- 学習改善や指導改善につながる学習評価
 - (1) ねらいやTASKに迫る中間コメントの在り方
 - (2) 自己調整を図り、粘り強く活動に取り組む評価の工夫
 - (3) パフォーマンス課題の設定と、それに向けた指導と評価の一体化

英語科

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

6年生

- ゆっくりはっきりと話されれば、自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、
- ・聞き取りにくかったときに繰り返しを求めながら、相手の考えや気持ち、事実等の具体的な情報を聞き取ることができる。
 - ・大切な言葉を手がかりにしながら、話の概要を捉えることができる。

5年生

- ゆっくりはっきりと話されれば、自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、
- ・英語特有の音やリズム、イントネーション等を聞き分けながら、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などを参考にして必要な情報を得ることができる。
 - ・大切な言葉を手がかりにしながら、話の概要を捉えることができる。

外国語活動

- ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
- ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

3・4年生

- ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、話されているおおよその内容を捉えることができる。

1・2年生

- ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

学習到達目標

話すこと [やり取り]

英語科

- ア 基本的な表現を用いて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

6年生

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、既習表現を用いて即興的に質問したり質問に答えたりすることができる。

5年生

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、聞き手の理解を確かめながら、既習表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

外国語活動

- ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。
- イ 自分のごとや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。
- ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

4年生

自分のごとや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

3年生

自分のごとや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交え、サポートを受けながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

1・2年生

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

英語科

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

6年生

自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手によりよく伝わるように整理したり、質問をして聞き手を巻き込んだりして、簡単な語句や基本的な表現を用いて、学級の前で話すことができる。

5年生

自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手に分かりやすく強調したり、繰り返したりして、簡単な語句や基本的な表現を用いて、小集団の前で話すことができる。

外国語活動

- ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

4年生

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞き手の反応を確かめながら小集団の前で話すことができる。

3年生

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、小集団の前で話すことができる。

学習到達目標

読むこと

英語科

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

6年生

自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたまとまりのある英文の意味が分かり、文字だけで表された場合でも音声と文字を関連づけて、推測しながら読むことができる。

5年生

自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた英文の意味が分かり、音声と文字を関連づけて読むことができる。

学習到達目標

書くこと

英語科

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

6年生

- ・活字体の大文字、小文字を正しい位置に書くことができる。
- ・自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ち、事実などを、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、例文を参考にして書きたい語句を選択しながら、語順を意識して書くことができる。

5年生

- ・活字体の大文字、小文字の書き方が分かる。
- ・自分のことや、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、例文を書き写すことができる。

1. 単元名 「どうぶつとなかよし」

2. 学習到達目標

場 所:1年1組教室

聞くこと

ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

話すこと [やり取り]

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

3. 単元の目標

みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと[やり取り]ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」につながる指導をするものである。

本単元では、動物を題材にして扱う。児童は絵本や図鑑、テレビなどを通して、たくさんの動物の名前を知っている。そのため、動物は親しみやすく楽しみながら活動できる題材である。また、これまでの単元を通して色や形、果物などの語彙や、「What ○○do you want?」「I want ~.」の表現に慣れ親しんでいる。

本単元では、みんなに紹介したくなるような動物園にするために、「What animal do you want?」「I want ~.」などの表現を用いて伝え合う姿をねらいとしている。既習表現を活用しながら、店員は、どの動物が欲しいのかを尋ねたり、客は、動物園に入れたい動物を考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

児童の多くは、英語の歌を楽しく歌ったり、英語を用いたゲームや買い物などの活動を楽しんで行ったりしている。

事前のアンケートでは、「英語の授業が好きですか」の質問には、「とても好き」「好き」と答えている児童が90%以上いた。また、分からないときには「Help me.」と教師や仲間をサポートを求めたり、言えない表現があると、中間コメントのときに伝え、解決しようとしたりと、自己調整を図りながら言語活動に取り組んでいる児童もいる。一方で、単語や表現を覚えて会話することは難しいと感じている児童もおり、一斉での単語や会話の練習では言えても、一人でやり取りをするときに会話に詰まってしまう姿もある。

学習した表現を何度も使用する活動を設定し、回数を重ねることで自信をもって会話活動ができるようにしていきたい。また、活動の初めには言えなかった表現が、活動が進むにつれて伝えることができるようになったことを認め合い、伸びや変容を実感できるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善	2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実	3. 学習改善や指導改善につながる学習評価
<p>【研究内容1—(1)】</p> <p>本単元の終末における願う児童の姿は、「みんなに紹介したくなるような動物園にするために「What ~do you want?」「I want ~.」などの表現を用いて、欲しい動物の名前や数を伝え合っている。」である。</p>	<p>【研究内容2—(1)】</p> <p>本時は、「全ての種類の動物を動物園の地図に貼る」という活動を設定する。全ての種類の動物を集めようというTASKを示し、その目標に向かって、繰り返し言語活動できるようにする。</p>	<p>【研究内容3—(1)】</p> <p>中間コメントでは、動物シールをもらうために、「What animal do you want?」「I want ~.」の表現を使って発話している児童や、全ての種類の動物シールを貼ろうと積極的に活動している児童を取り上げ、本時のTASKを再認識できるようにする。</p>
<p>【研究内容1—(2)】</p> <p>本単元を4時間で構成する。第1時と第2時では、動物の言い方に慣れ親しむことができる活動を設定する。第3時と第4時では、それらの語彙や表現を使って自分の動物園を作る活動を行う。</p> <p>単元を通して、繰り返し動物の名前や、動物を増やすために必要な表現に親しむことで、動物の名前を尋ねたり、答えたりすることができるようにする。</p>	<p>【研究内容2—(2)】</p> <p>本時は、動物園の地図を児童が持ち、そこにやり取りをしたシールを貼る。ワークシートを見て、どの動物が集められているか視覚的に分かるようにすることで、次にどの動物をもらうのかを明確にして活動できるようにする。</p>	<p>【研究内容3—(2)】</p> <p>終末のコメントでは、活動で使用した地図にすべての種類の動物がいるかを確認し、本時の学びを実感できるようにする。また、単語から文を使って会話できるように変容した姿を価値付ける。</p>

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What animal do you want? I want a (tiger). How many? (Three), please.	動物: tiger, bear, rabbit, monkey, pig, koala, elephant cow, 数 : one, two, three

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・動物の名前や“What animal do you want?” “I want ~.”の表現について理解している。 ・欲しい動物について上記の表現や既習表現を用いて、尋ねたり答えたりする技能を身に付けている。	・みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	・みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: みんなに しょうかいしたくなるような どうぶつえんをつくろう。

時	目標	Teachers' Topic	知技	思判表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う	
		主な活動における児童の発話例					
1	「カードとりゲーム」を通して、動物の名前の言い方を知り、動物の名前を聞き取ったり、真似して言ったりすることができる。	Brown bear の読み聞かせ S: What animal do you want? T: I want a monkey. S: Monkey, monkey, monkey.	○			・動物の名前や、“What animal do you want?” “I want ~.”の表現について理解している。 【聞くこと 知・技】 行動観察	
2	「ピンゴゲーム」を通して、動物の名前の言い方に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	Dear zoo の読み聞かせ A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.	○		○	・欲しい動物について、“What animal do you want?” “I want ~.”の表現を用いて尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 行動観察、ワークシート	
3 本時	「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりすることができる。	いろいろな動物 A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? Here you are. B: Thank you. A: You're welcome. AB: See you.	◎		○	「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 行動観察、ワークシート	
4 1-2	「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前に慣れ親しみ、欲しい動物や数を伝え合うことができる。	動物シルエットクイズ A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? How many? B: Three. A: OK. One, two, three. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.			◎	○	「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前に慣れ親しみ、欲しい動物や数を伝え合っている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】 行動観察、ワークシート、授業支援アプリ

9. 単元における本時の捉え

本時は、それぞれの動物園の地図に全ての種類の動物を集めるという目的を明確にして活動を行う。既習表現を用いて繰り返し活動を行い、いろいろな種類の動物を集めようとしている姿を目指す。

10. 本時の目標 (3/4)

「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てくてくじゃんけん」を元気に歌って挨拶をする。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動物がいることを知る。 <p>3. Activity</p> <p>①教師のやり取りを見て本時の TASK をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK ぜんぶのどうぶつをあつめてどうぶつえんをつくらう。</p> </div> <p>②A: Shopkeeper と B: Customer の役割に分かれて、やり取りする。</p> <p>③中間コメント (1)</p> <p>④ペアで活動する。</p> <p>⑤中間コメント (2)</p> <p>⑥A と B の役割を交代してやり取りする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>AB: Hello. A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? Here you are. B: Thank you. A: You're welcome. AB: See you.</p> </div> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 「全部の種類動物を貼ることができた。」 「動物の名前を覚えて言うことができた。」 ・教師から、本時の TASK を達成しようと挑戦を繰り返した児童の紹介を聞く。 	<p>・世界の国々に、様々な動物がいることを知り興味を広げるとともに、どんな動物園に行きたいか本時の TASK に意識を向けられるようにする。 【研究内容2】</p> <p>・黒板に動物園のイラストを提示し、本時の活動の内容を視覚的に示し、全ての種類の動物がいる動物園を作ることを確認する。 【研究内容2】</p> <p>・一つの店でもらえる動物の種類は3種類にし、児童が行く店を選択して活動が行えるようにする。 【研究内容2】</p> <p>・中間コメント (1) では、単語や文の言い方で難しかったところを確認する。また、正しい文でやり取りしようとしている児童の姿を価値付け、全体に広める。活動で困ったとき、分からないときは“Help me.”を使って教えてもらえばよいことを確認する。</p> <p>・中間コメント (2) では、全ての種類の動物を集めようとしている児童を価値付けて、TASK が達成できるように確認する。 【研究内容3】</p> <p>・正しい表現を使って活動していた児童を価値付ける。 「I want a monkey.と文で会話できていたね。」 「What animal do you want?の want が言えていたね。」</p> <p>・全ての種類の動物シールを貼ろうと粘り強く取り組んでいる児童を価値付ける。</p> <p>・「動物園の様子を確認して、まだ貼っていない動物を集めようと活動できていたね。」</p> <p>・動物園の地図に全ての種類の動物が貼れたか確認する。 【研究内容3】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の評価規準】 「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりしている。 <話すこと (やり取り) 知・技></p> </div>

1. 単元名 「どうぶつとなかよし」

場 所：1年2組教室

2. 学習到達目標

聞くこと

ゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

話すこと【やり取り】

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

3. 単元の目標

みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと【やり取り】ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」につながる指導をするものである。

本単元では、動物を題材にして扱う。児童は絵本や図鑑、テレビなどを通して、たくさんの動物の名前を知っている。そのため、動物は親しみやすく楽しみながら活動できる題材である。また、これまでの単元を通して色や形、果物などの語彙や、“What ○○do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんでいる。

本単元では、みんなに紹介したくなるような動物園にするために、“What animal do you want?” “I want ~.”などの表現を用いて伝え合う姿をねらいとしている。既習表現を活用しながら、店員は、どの動物が欲しいのかを尋ねたり、客は、動物園に入りたい動物を考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

児童は、小学校の英語の授業にも慣れ、元気に挨拶をしたり、英語の歌を楽しく歌ったり、英語を用いたゲームや買い物などの活動を楽しんでできるようになってきている。

事前のアンケート結果からも、「英語の授業が好きですか」の質問には、「とても好き」「好き」と答えている児童が90%以上おり、楽しく会話している姿も多い。また、分からない時や言えない表現があると、その状況を解決しようと対話するペアに聞き、自分で考えながら言語活動に取り組んでいる児童もいる。一方で、単語や表現を覚えて会話することは難しいと感じている児童もおり、一斉での単語や会話の練習では言えても、仲間と対話をする時に自信がもてず、話せなくなってしまいう姿もある。

そのため、学習した表現を何度も使用する活動を設定し、回数を重ねることで自信をもって会話活動ができるようにしていきたい。また、活動の初めには言えなかった表現が、活動が進むにつれて伝えることができるようになったことを認め合い、伸びや変容を実感できるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「みんなに紹介したくなるような動物園にするために “What~do you want~?” “I want ~.”などの表現を用いて、欲しい動物の名前や数を伝え合っている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を4時間で構成する。第1時と第2時では、動物の言い方に慣れ親しむことができる活動を設定する。第3時と第4時では、それらの語彙や表現を使って自分の動物園を作る活動を行う。

単元を通して、繰り返し動物の名前や、動物を増やすために必要な表現に親しむことで、動物の名前を尋ねたり、答えたりすることができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時は、「みんなに紹介したくなる動物園を作る」という活動を設定する。みんなに紹介したくなるような動物園を作ろうというTASKを示し、その目標に向かって、繰り返し言語活動できるようにする。

【研究内容2—(2)】

本時は、動物園の地図が描かれたワークシートを児童が持ち、そこにやり取りをしたシールを貼る。そのシートに、どんな動物園にしたいのかという願いや、その願いに合うようにほしい動物の数を書く。どの動物が集められているか視覚的に分かるようにすることで、次にどの動物をもらうかを明確にして活動できるようにする。

【研究内容2—(3)】

本時は、活動の最後にICTを活用し、タブレットで自分の作った動物園を撮影し、授業支援アプリを使って交流する。そうすることでどんな願いをもって作った動物園なのか、お互いに共通理解できるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、どんな動物園にしたいのか、自分の願いをもって動物を集めようとしている姿を取り上げ、価値付けていく。そうすることで本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末のコメントでは、自分が作った動物園を仲間と交流することで、お互いの頑張りを、よさを認め合う時間を設ける。振り返りでは、自分ができたことを書き、本時の学びを実感できるようにする。また、完成させた動物園を紹介する写真を撮り、自己の学びを振り返り、成長を確かめる。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What animal do you want? I want a (tiger). How many? (Three), please.	動物: tiger, bear, rabbit, monkey, pig, koala, elephant, COW 数 : one, two, three

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉の取組	・動物の名前や“What animal do you want?” “I want ~.”の表現について理解している。 ・欲しい動物について上記の表現や既習表現を用いて、尋ねたり答えたりする技能を身に付けている。	・みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	・みんなに紹介したくなるような動物園を作るために、欲しい動物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

Goal: みんなに しょうかいしたくなるような どうぶつえんをつくろう。

8. 単元指導計画

時	目標	Teachers' Topic	知技	思判表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う	
		主な活動における児童の発話例					
1	「カードとりゲーム」を通して、動物の名前の言い方を知り、動物の名前を聞き取ったり、真似して言ったりすることができる。	Brown bear の読み聞かせ S: What animal do you want? T: I want a monkey. S: Monkey, monkey, monkey.	○			動物の名前や、“What animal do you want?” “I want ~.”の表現について理解している。 【聞くこと 知・技】 行動観察	
2	「ピンゴゲーム」を通して、動物の名前の言い方に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	Dear zoo の読み聞かせ A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.	○		○	欲しい動物について、“What animal do you want?” “I want ~.”の表現を用いて尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察、ワークシート	
3 1-1	「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりすることができる。	いろいろな動物 A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? Here you are. B: Thank you. A: You're welcome. AB: See you.	◎		○	「全ての種類の動物がいる動物園を作る活動」を通して、動物の名前を表す表現に親しみ、何の動物が欲しいか尋ねたり、答えたりしている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察、ワークシート	
4 本時	「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前に慣れ親しみ、欲しい動物や数を伝え合うことができる。	動物シルエットクイズ A: What animal do you want? B: I want a monkey. A: Monkey? How many? B: Three. A: OK. One, two, three. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.			◎	○	「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前に慣れ親しみ、欲しい動物や数を伝え合っている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 行動観察、ワークシート 授業支援アプリ

9. 単元における本時の捉え

本時は、自分が仲間に紹介したくなるような動物園を作る活動を行う。会話をする中で、動物園に行く人の立場になって、どのような動物園だと楽しい動物園になるか考えて活動する姿を目指す。

10. 本時の目標 (4/4)

「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前の言い方に親しみ、欲しい動物や数を伝え合うことができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting 「てくてくじゃんけん」を元気に歌って挨拶をする。</p> <p>2. Teachers' Topic ・いろいろな動物のシルエットを見て、その動物の名前を当てる。</p> <p>3. Activity ①教師のやり取りを見て、本時の TASK をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK みんなに しょうかいしたくなるような どうぶつえんをつくろう。</p> </div> <p>②A: Shopkeeper と B: Customer の役割に分かれて、やり取りする。 ③中間コメント (1) ④ペアで活動する。 ⑤中間コメント (2) ⑥A と B の役割を交代してやり取りする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Hello. B: Hello. What animal do you want? A: I want a monkey. B: How many? A: Three. B: OK. One, two, three. Here you are. A: Thank you. See you.</p> </div> <p>⑦ペアで自分が作った動物園について、交流する。 自分の動物園をタブレットで撮影し、授業支援アプリを使って、学級で共有する。</p> <p>4. Comment Time ・単元の振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 「みんなに紹介したい動物園を作ることができた。」 「欲しい動物の名前や数を相手に伝えることができた。」 ・教師から、本時の TASK を達成しようと挑戦を繰り返した児童の紹介を聞く。</p>	<p>・世界の国々にいる様々な動物の影を見て、動物の名前を英語で言えるか確かめ、どんな動物園にお客さんを連れて行きたいか考え、本時の TASK に意識を向けられるようにする。</p> <p>・黒板に動物のいない動物園のイラストを提示し、どんな動物がどのくらいいると、みんなが楽しめる動物園になるのかを想像することで、本時の TASK につなげる。 【研究内容2】</p> <p>・児童が考えながら動物を集められるようにするために、1つの店でもらえる動物の種類は3種類にする。 【研究内容2】</p> <p>・中間コメント (1) では、単語や文の言い方で難しかったところを確認する。うまく言えるように再度練習する。また数の確認のために、聞き返して会話している児童の姿を価値付け、全体に広める。活動で困ったとき、分からないときは“Help me.”を使って教えてもらえばよいことを確認する。</p> <p>・中間コメント (2) では、自分の願いにあった動物を積極的に集めようとしている児童を価値付けて、TASK が達成できるように確認する。 【研究内容3】</p> <p>・進んでやり取りをして活動していた児童を価値付ける。 「英語で数を尋ねたり、答えたりできていたね。」 「One, two, three. と数を確かめながら活動できていたね。」</p> <p>・自分の願いに合う動物シールを貼ろうと粘り強く取り組んでいる児童を価値付ける。</p> <p>・「動物園の様子を確認して、まだ集まっていない動物を集めようと活動できていたね。」</p> <p>・動物園の地図に自分の欲しい動物が貼れたか確認する。 【研究内容3】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 「みんなに紹介したくなるような動物園を作る活動」を通して、動物の名前に慣れ親しみ、欲しい動物や数を伝え合っている。 <話すこと (やり取り) 思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「おかし 大すき」

場 所：2年1組教室

2. 学習到達目標

聞くこと

ゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

話すこと [やり取り]

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

3. 単元の目標

家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴（風味）を伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと [やり取り] ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」につながる指導をするものである。

本単元では、お菓子を題材として扱う。児童は、これまでの単元を通して、色や形、野菜や海の生き物などの語彙や、“What～ do you want?” “I want ～.” の表現に慣れ親しんでいる。全ての味のお菓子が入った詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、“What snack do you want?” “I want ～.”などの表現を用いて、お菓子やその特徴（風味）を伝え合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、お菓子の特徴を伝えたり、自分の家族が喜ぶお菓子を選択し、考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

本学級の児童は、英語の授業に慣れ、ALT の話す英語を聞いて反応したり、英語を使ったゲームや買い物等の活動を楽しんだりしている。また、好きなものや欲しいもの、数の言い方などを、はっきりと正確に伝えることができるようになってきた。

事前に、児童に行った英語の調査では、本単元で出てくるお菓子の言い方が全て分かる児童が9割以上いた。調査の結果から、ほとんどの児童が英語でのお菓子の言い方に慣れ親しんでいることが分かった。

そこで、本単元では、お菓子の言い方だけではなく、風味の言い方も加え、お菓子の種類を増やす。また、自信をもって会話できるようにするために、既習表現を活用して話す場面を繰り返し設定し、伝え合えた喜びを実感できるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、“What snack do you want?” “I want ～.”などの表現を用いて、お菓子やその特徴（風味）を伝え合っている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を4時間で構成する。第1時と第2時では、お菓子の名前を聞いたり、理解したりする活動を設定する。第3時と第4時では、それらの語彙に加え、風味を使って、全てのお菓子や家族が喜ぶお菓子を集める活動を行う。

単元を通して、お菓子の名前やお菓子を集めるために、繰り返し必要な表現に親しむことで、欲しいお菓子やその風味を尋ねたり、答えたりすることができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時は「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る」という活動を設定する。全てのお菓子を集めようというTASKを示し、それに向かって繰り返し言語活動できるようにする。

【研究内容2—(2)】

本単元では、児童にとって身近な8種類のお菓子を題材として扱う。また、種類だけではなく、「桃味」や「ぶどう味」といった風味も言語材料として扱う。そうすることによって、様々なお菓子の種類や風味に慣れ親しみ、お菓子の詰め合わせを作ることができるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、全ての種類のお菓子の詰め合わせを作ろうと積極的に活動している児童を価値付け、全体へ広める。そうすることで、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末のコメントでは、活動で使ったお菓子の詰め合わせに、全てのお菓子があるかを確認し、全て集めるために、正確に伝え合うことができた児童を紹介し価値付ける。

また、振り返りシートには、前時と比べて何ができるようになったのか身に付いた力を書くことで、本時の学びを実感できるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What snack do you want? I want (lollipops). How many? (Two), please.	お菓子: lollipop, cookie, cracker, gummy, chocolate, Jelly, cake, pudding 風味: peach, grape, orange 数 : one, two, three

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (やり取り)	・欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現などを用いてお菓子やその特徴を伝え合う技能を身に付けている。	・家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴(風味)を伝え合っている。	・家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴(風味)を伝え合うとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作ろう。

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】
		主な活動における児童の発話例				※太枠：記録に残す評価を行う
1	「スナックカードゲーム」を通して、お菓子の名前の表現に親しみ、お菓子の名前を聞き取ったり、まねて言ったりすることができる。	どんなお菓子があるかな S: What snack do you want? T: I want a lollipop. S: Lollipop, lollipop, lollipop, lollipop!	○			お菓子の名前を聞き取ったり、まねて言ったりしている。 【聞くこと・知・技】 ワークシート・行動観察
2	「お菓子ビンゴ」を通して、お菓子の名前の表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	お菓子クイズ A: What snack do you want? B: I want a cookie. A: Cookie? OK. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.	○			欲しいお菓子の名前を尋ねたり、答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察
3 本時	「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子とその特徴(風味)を答えたりすることができる。	オーストラリアのお菓子について A: What snack do you want? B: I want a lollipop. A: OK. What lollipop do you want? B: I want a peach lollipop. A: OK. A peach lollipop. Here you are. B: Thank you. AB: See you.	◎		○	「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、欲しいお菓子やその特徴(風味)を伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察
4 2-2	「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりすることができる。	いろいろな国のお菓子について A: What snack do you want? B: I want jelly, please. A: OK. What jelly do you want? B: I want orange jelly. A: OK. How many? B: Two, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. AB: See you.		◎	○	「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりしている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】 ワークシート・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに行ったやり取りをもとに、全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動を行う。全ての味を集めるために、繰り返し会話をする中で、相手に何のお菓子が欲しいのかを尋ねたり、欲しいお菓子とその特徴（風味）を答えたりすることができる姿を目指す。

10. 本時の目標（3/4）

「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴（風味）を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子とその特徴（風味）を答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てくてくじゃんけん」を歌って、元気に挨拶をする。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアのお菓子の名前や風味について、教師が行うやり取りを聞く。 <p>3. Activity</p> <p>①教師のやり取りを見て、本時のTASKをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>TASK ぜんぶのあじのおかしが入った、おかしボックスをつくろう。</p> </div> <p>②やり取り（1）</p> <p>③中間コメント（1）</p> <p>④やり取り（2）</p> <p>⑤中間コメント（2）</p> <p>⑥やり取り（3）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: What snack do you want? B: I want a lollipop. A: OK. What lollipop do you want? B: I want a peach lollipop. A: OK. A peach lollipop. Here you are. B: Thank you. AB: See you.</p> </div> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 「全部の味のお菓子を集めることができた。プリンの方が分からなかったけれど、言えるようになった。」 「グミの言い方が分かった。キャンディーの言い方がまだ分からないので、次は覚えられるようにしたい。」 ・児童や教師のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“What ~ do you want?” や “I want~.” などの既習表現を、てくてくじゃんけんに取り入れて歌う。 ・本時の内容を想起できるように、“What snack do you want?” や “I want~.” などの既習表現を使ってやり取りを行う。オーストラリアならではのお菓子の名前や、特徴（風味）についてやり取りすることで、様々な種類のお菓子への興味を広げるとともに、本時のTASKにつなげる。 【研究内容2】 ・TASKを確認した後、まず活動に取り組むようにし、児童がどこまでやり取りができるか把握する。 ・一度のやり取りで集められるお菓子は1種類とし、繰り返し言語活動ができるようにする。 【研究内容2】 ・中間コメント（1）では、単語や文の言い方での困り感を交流する。また、正しい文で活動しようとしている児童の姿を価値付け、全体に広める。 ・中間コメント（2）では、全ての味のお菓子を集めようとしている児童のワークシートを電子黒板に映し、TASKの再確認を行う。また、正確にやり取りができていた児童を価値付ける。 【研究内容3】 ・正しい表現を使って活動していた児童を価値付ける。 ・全ての味のお菓子の詰め合わせを作ることができたかを全体で確認し、本時のTASKを意識して活動できた児童を価値付ける。 【研究内容3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、欲しいお菓子やその特徴（風味）を伝え合う技能を身に付けている。 <話すこと（やり取り）知・技></p> </div>

1. 単元名 「おかし 大すき」

場 所：2年2組教室

2. 学習到達目標

聞くこと

ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

話すこと [やり取り]

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

3. 単元の目標

家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴（風味）を伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと [やり取り] ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」につながる指導をするものである。

本単元では、お菓子を題材として扱う。児童は、これまでの単元を通して、色や形、野菜や海の生き物などの語彙や、“What～ do you want?” “I want ～.” の表現に慣れ親しんでいる。全ての味のお菓子が入った詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、“What snack do you want?” “I want ～.”などの表現を用いて、お菓子やその特徴（風味）を伝え合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、お菓子の特徴を伝えたり、自分の家族が喜ぶお菓子を選択し、考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

本学級の児童は、英語の授業に慣れ、ALT の話す英語を聞いて反応したり、英語を使ったゲームや買い物等の活動を楽しんだりしている。また、既習表現を使って、好きなものや欲しいものをはっきりと話すと、自分の考えや気持ちを正確に伝えることができるようになってきた。

事前に、児童に行った英語の調査では、本単元で出てくるお菓子8種のうち、8種全て言い方が分かる児童が9割以上いた。調査の結果から、ほとんどの児童が英語でのお菓子の言い方を知っていることが分かった。

そこで、お菓子の言い方だけでなく、風味の言い方を付け加え、選択できるお菓子を増やしていく。また、既習表現を活用して話す場面を繰り返し設定し、伝え合えた喜びを実感できるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、“What snack do you want?” “I want ～.”などの表現を用いて、お菓子やその特徴（風味）を伝え合っている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を4時間で構成する。第1時と第2時では、お菓子の名前を聞いたり、理解したりする活動を設定する。第3時と第4時では、それらの語彙に加え、風味を使って、全てのお菓子や家族が喜ぶようなお菓子を集める活動を行う。

単元を通して、お菓子の名前やお菓子を集めるために、繰り返し必要な表現に親しむことで、欲しいお菓子やその風味を尋ねたり、答えたりすることができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時は「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る。」という活動を設定する。教師のやり取りから、目的意識や、相手意識をもてるようにする。ワークシートには、どのようなお菓子の詰め合わせにしたいのか、何のお菓子をいくつ集めるのかを書き、それに向かってお菓子を集められるようにする。

【研究内容2—(2)】

本単元では、児童にとって身近な8種類のお菓子を題材として扱う。また、種類だけでなく、お菓子によって、「ぶどう味」や「桃味」といった風味も言語材料として扱う。そうすることによって、選択するお菓子の幅を広げ、より家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作ることができるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、「どうしてそのお菓子を選んだのか。」や「なぜその数にしたのか。」を児童に確認し、「家族が喜ぶお菓子」を考えている児童を価値付け、全体へ広める。そうすることで、本時の TASK を再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末のコメントでは、途中経過の段階のワークシートと、お菓子の詰め合わせが出来上がったワークシートを電子黒板に映し、全体で変容を確認する。また、振り返りシートには、本時は、前時と比べて何ができるようになったのか、身に付いた力を書くことで、本時の学びを実感できるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What snack do you want? I want (lollipops). How many? (Two), please.	お菓子: lollipop, cookie, cracker, gummy, chocolate, jelly, cake, pudding 風味: peach, grape, orange 数 : one, two, three

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現などを用いてお菓子やその特徴を伝え合う技能を身に付けている。	・家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴(風味)を伝え合っている。	・家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るために、欲しいお菓子について、簡単な語句や基本的な表現を用いてお菓子やその特徴(風味)を伝え合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作ろう。

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠: 記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	「スナックカードゲーム」を通して、お菓子の名前の表現に親しみ、お菓子の名前を聞き取ったり、まねて言ったりすることができる。	どんなお菓子があるかな S: What snack do you want? T: I want a lollipop. S: Lollipop, lollipop, lollipop, lollipop!	○			お菓子の名前を聞き取ったり、まねて言ったりしている。 【聞くこと 知・技】 ワークシート・行動観察
2	「お菓子ビンゴ」を通して、お菓子の名前の表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	お菓子クイズ A: What snack do you want? B: I want a cookie. A: Cookie? OK. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.	○			欲しいお菓子の名前を尋ねたり、答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察
3 2-1	「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子とその特徴(風味)を答えたりすることができる。	オーストラリアのお菓子について A: What snack do you want? B: I want a lollipop. A: OK. What lollipop do you want? B: I want a peach lollipop. A: OK. A peach lollipop. Here you are. B: Thank you. AB: See you.	◎		○	「全ての味のお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、欲しいお菓子やその特徴(風味)を伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察
4 本時	「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりすることができる。	いろいろな国のお菓子について A: What snack do you want? B: I want jelly, please. A: OK. What jelly do you want? B: I want orange jelly. A: OK. How many? B: Two, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. AB: See you.		◎	○	「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴(風味)を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりしている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】 ワークシート・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに行ったやり取りをもとに、自分の家族が喜ぶようなお菓子の詰め合わせを作る活動を行う。会話をすす中で、何のお菓子が欲しいのかを尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりして、考えて活動する姿を目指す。

10. 本時の目標（4/4）

「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴（風味）を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> 「てくてくじゃんけん」を歌って、元気に挨拶をする。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな国のお菓子の名前や風味について教師が行うやり取りを聞く。 <p>3. Activity</p> <p>①教師のやり取りを見て、本時のTASKをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>TASK 家ぞくがよろこぶお菓子の詰め合わせをつくる。</p> </div> <p>②どのようなお菓子の詰め合わせにしたいのかをワークシートに書き込む。</p> <p>③やり取り（1）</p> <p>④中間コメント（1）</p> <p>⑤やり取り（2）</p> <p>⑥中間コメント（2）</p> <p>⑦やり取り（3）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: What snack do you want? B: I want jelly, please. A: OK. What jelly do you want? B: I want orange jelly. A: OK. How many? B: Two, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. AB: See you.</p> </div> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 「家族が喜ぶようなお菓子をたくさん入れることができた。特に、私の妹は、ぶどうのグミが好きで、よく食べているので、ぶどう味のグミを多めに入れた。」 児童や教師のコメントを聞く。 	<p>・“What ~ do you want?” や “I want~.” などの既習表現を、てくてくじゃんけんに取り入れて歌う。</p> <p>・本時の内容を想起できるように、“What snack do you want?” や “I want~.” などの既習表現を使って、様々な国のお菓子の名前や風味についてやり取りする様子を示す。</p> <p>・教師でやり取りを行い、家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作るというTASKにつなげる。 【研究内容2】</p> <p>・家族が喜ぶお菓子を考えながら集めるために、ワークシートに「ぶどう味のグミがいっぱいのお菓子」など、どのようなお菓子の詰め合わせを作りたいのか書き込むようにする。lollipop, jelly, gummyのみ、風味を選ぶようにする。 【研究内容2】</p> <p>・TASKを確認した後、まず活動に取り組むようにし、児童がどこまでやり取りができるか把握する。</p> <p>・中間コメント（1）では、児童にどんな表現を使ったのか、困ったことはないかを確認する。また、家族が喜ぶお菓子の詰め合わせにするためには、何のお菓子をいくつ集めればよいのかをよく考えながら、詰め合わせを作っている児童のワークシートを電子黒板に映し、TASKの再確認を行う。</p> <p>・中間コメント（2）では、「家族がもっと喜ぶようなお菓子の詰め合わせにするためにはどうしたらよいか」と問いかけることで、TASKをより意識できるようにする。 【研究内容3】</p> <p>・自分や仲間の伸びや変容を実感するために、家族が喜ぶお菓子を集めることができたかを全体で確認する。また、振り返りの視点を電子黒板に示す。 【研究内容3】</p> <p>・家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作ることができたかを確認し、本時のTASKを意識して活動できた児童を価値付ける。 【研究内容3】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 「家族が喜ぶお菓子の詰め合わせを作る活動」を通して、お菓子の名前や特徴（風味）を表す表現に親しみ、何のお菓子が欲しいか尋ねたり、欲しいお菓子を答えたりしている。 <話すこと（やり取り）思・判・表></p> </div>

2. 学習到達目標

話すこと【やり取り】

自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交え、サポートを受けながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

話すこと【発表】

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、小集団の前で話すことができる。

3. 単元の目標

相手の好みに合ったグリーティングカードを贈るために、好きなものや欲しいものの数や色、形を尋ねたり答えたりして伝え合い、出来上がったカードを相手に伝わるように工夫しながら紹介することができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと【やり取り】ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」を中心に指導をするものである。

本単元では、数や色、形を題材として扱う。それらを使って「相手に伝わるように工夫しながら、好みに合ったカードを贈る」活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養うことをねらいとしている。そこで、「相手の好みに合ったカードを贈る」という単元全体の目的を設定し、そのために数や色、形の言語を習得したり、それを使って欲しいものを尋ねたり答えたりする場や相手に伝わるように工夫しながらカードを紹介する場を設ける。

第5時では、集めた材料をもとに作ったグリーティングカードを活用して、相手に伝わるように工夫しながらカードに使った材料を話すことができるようにする。

<児童観>

児童は、これまでの単元を通して、数や色、野菜や果物、身の回りの物などの語句とともに、自分の好みを伝えたり、相手の好みを尋ねたりする表現に慣れ親しんでいる。しかし、自分の思いを伝え合う場面では、十分な定着が図れておらず、既習表現を忘れていた児童も多い。

児童に行ったアンケートでは、「英語は好きですか」という質問に対し、9.6%以上の児童が「とても好き」「まあまあ好き」と答えている。その一方で、「相手に自分の欲しいものを英語で伝えることができますか」や「相手に何が欲しいか英語で聞くことができますか」という質問に対して、「英語で伝えることができる」と答えた児童は、44%と51%だった。

そこで本単元では、“What shape do you want?” “I want ~.” という表現に加え、“This is ~”や“I like ~”を繰り返し話す場面を設定することで定着を図り、単語だけの発話から文章での会話ができるようにし、児童が自他の伸びや変容を実感できるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「相手の好みに合ったカードを贈るために、“What shape do you want?” や “I want ~.”などの文章表現を用いて、好きなものや欲しいものを伝え合ったり、相手に伝わるように工夫しながらカードを紹介したりすることができる」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を5時間で構成する。第1時と第2時では、数や色、形に慣れ親しむ活動を設定する。第3時では、グリーティングカードを作るために、相手の好みを調べる活動を行い、第4時でカードの材料を集める。第5時では、相手に伝わるようにカードを紹介する活動を行う。

単元を通して、繰り返し数や色、形の表現に慣れ親しむことで、児童の自信や意欲を育み、カードを紹介できるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

語活動の充実

【研究内容2—(1)】

TASKを意識して活動に取り組むことができるように、グリーティングカードを紹介する活動を設定することで、「相手の好みに合ったグリーティングカードを贈る」という目的意識と相手意識をもてるようにする。

【研究内容2—(2)(3)】

ペアの好みに合わせてカードを作ることができるように、ICT教材を使用する。数や色、形だけでなく、大きさや向き、配置も変えることができる。それを使って、グリーティングカードを作り、様々な言語材料に触れることができるようにする。

また、本時では、ペアの好みに合ったカードを紹介するという活動から、相手意識を広げ、自分が贈りたい相手の好みに合ったカードを作成し、紹介するという活動へとつなげる。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、児童の困り感を共有し、児童同士で解決できるように支援する。また、言語材料をたくさん使って、詳しく話そうとしている姿や、“This is ~”や“I like ~”などの表現を正しく発話できている児童の姿を価値付け、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末では、カードを相手に紹介しながら贈るという活動を設定することで、数や色、形を詳しく伝えることができている姿を価値付ける。また、相手の好みに合わせて作ることができたか、ワークシートを活用して振り返ることで、本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容3—(3)】

グリーティングカードを紹介する様子を撮影して記録に残すことで、全体の課題に対する達成度を見届けやすくする。また、その記録を活用して今後の指導へとつなげていく。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What shape do you want? I want (red diamonds). How many? (Ten), please. This is for you. Here you are. Thank you. You're welcome.	形 : circle, triangle, square, rectangle, diamond, heart, star 色 : white, black, red, pink, purple, blue, green, yellow 数 : one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten 状態 : big, small

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し手(6歳児)	<ul style="list-style-type: none"> カードに使われている形の名前や数、色を表す語、“What shape do you want?” “How many?” などの表現について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の好みに合ったカードを作るために、必要な数や色、形について、伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の好みに合ったカードを作るために、必要な数や色、形について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
話し手(7歳児)	<ul style="list-style-type: none"> 形の名前や数、色を表す語や、“This is ~.” “I like ~.” などを用いて、相手の好みに合ったグリーティングカードについて、話す技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来上がったカードを、相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来上がったカードを、相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介しようとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 相手の好みに合ったグリーティングカードを作って、紹介しながら贈ろう。

時	目標	Teachers' Topic			主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例	知技	思判表		
1	形を表す語彙について ALT の英語の発音を聞き取り、ゲーム活動を通して、形の言い方に慣れ親しむことができる。	グリーティングカード紹介 S: What shape do you want? T: I want a circle. S: I want a circle. I want a circle. I want a circle. I want a circle.	○			ゲーム活動を通して、形を表す語彙を聞き取り、形の言い方を理解している。 【聞くこと 知・技】 行動観察・振り返り
2	数や色、形の名前の英語表現に親しみ、絵を見て形の名前と色、その数を尋ねたり答えたりすることができる。	カード当てクイズ S: What shape do you want? T: I want black stars. S: How many? T: Two, please. S: Is this OK? T: That's right.	○			数や色、形の名前の英語表現を伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察・振り返り
3	相手の好みを知るために、相手や自分の好きな色や形について尋ねたり、答えたりすることができる。	世界のグリーティングカードの紹介 A: What color do you like? B: I like blue. A: What shape do you like? B: I like stars. A: What do you like? B: I like cats. A: OK. Thank you.	◎	○		相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、互いの考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察・ワークシート

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
4 3-2	「グリーティングカード作り」の活動を通して、相手や自分の欲しい色や形、その数について尋ねたり、答えたりすることができる。	ALT へのグリーティングカード作り A: Hello. What color do you want? B: I want red. A: OK. What shape do you want? B: I want triangles. A: How many? B: Three, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.		◎	○	相手の好みに合わせたグリーティングカードを作るために、相手や自分が欲しい色や形、その数について、互いに伝え合っている。 【話すこと（やり取り）思・判・表】 行動観察・振り返り
5 本時	相手の好みに合ったグリーティングカードを贈るために、カードを紹介する活動を通して、カードに使った数や色、形について、詳しく伝えることができる。	学年の先生へ送るカードの紹介 A: This is a super card. A red rectangle, two blue circles, a big black triangle and three yellow triangles. It's a rocket. This is for you. B: Wow, nice. I like red and black. Thank you.		◎	○	相手にグリーティングカードを贈るために、カードに使った数や色、形について詳しく紹介している。 【話すこと（発表）思・判・表】 授業支援アプリ・振り返り

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時に作ったグリーティングカードを使って、どのくらいの数を、どの色でどんな形を集めたのか紹介し合う活動を行う。また、カードを贈る活動を元に、身近な相手から他者へと相手意識を広げ、相手の好みに合わせたカードを作成して、説明する活動を位置付ける。それらの活動を通して、数や色、形を表す英語表現や“What shape do you want?” や “This is ~.”などの表現を使って、詳しく相手に話すことができる姿を目指す。

10. 本時の目標 (5/5)

相手の好みにあったグリーティングカードを紹介する活動を通して、カードに使った数や色、形について、詳しく話すことができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てくてくじゃんけん」を歌う。 ・天気や気分、曜日についての質問に答える。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のやり取りを聞いて、本時の TASK をつかむ。 <div data-bbox="140 790 794 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK 相手によるこんでもらえるグリーティングカードをおくるために、カードをくわしくしょうかいしよう。</p> </div> <p>3. Activity</p> <p>① 自分の作ったカードを紹介して、友達にカードを贈る。</p> <div data-bbox="161 1016 775 1200" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: This is a special card. A pink circle, two black circles and a red rectangle. This is for you. B: Wow, nice. Thank you.</p> </div> <p>② 中間コメント (1)</p> <p>③ ①とは異なる友達にカードを作る。</p> <p>④ ①とは異なる友達に、自分の作ったカードを紹介して贈る。</p> <p>⑤ 中間コメント (2)</p> <p>⑥ 授業支援アプリで発表のまとめの姿を自分で撮影し、提出する。</p> <div data-bbox="161 1442 775 1637" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: This is a special card. A pink circle, two orange triangles, two black circles and a red rectangle. This is for you. Here you are. B: Wow, nice. I like cats. Thank you.</p> </div> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 「相手の好みにあったグリーティングカードを詳しく紹介して、プレゼントすることができてよかった。」 ・児童や教師のコメントを聞く。 	<p>・「てくてくじゃんけん」では、“What shape do you like?” を仲間と尋ね合うことで、既習表現の習熟を図る。</p> <p>・教師がグリーティングカードを贈っている場面を見せることで、自分の作ったカードの紹介の仕方を理解するようにし、本時の TASK につなげる。 【研究内容2】</p> <p>・This is ~.の言い方を全体で確認してから紹介する活動に入るようにする。</p> <p>・中間コメント (1) では、児童の困り感を共有し、児童同士で解決できるようにする。また、紹介の様子を全体で交流し、言語面や内容面を評価する。そして、身近な相手から他者へと相手意識を広げることができるよう、カードをもらってどうだったかを問う。そうすることで、本時の TASK を再認識していく。 【研究内容3】</p> <p>・①とは異なる相手に好きな形や物を尋ねることで、④の活動へとつなげる。</p> <p>・中間コメント (2) では、「もっと喜んでもらうためにはどうするとよいか」を問いかけ、児童がより詳しく紹介することができるようにする。 【研究内容2】</p> <p>・本時の学びを実感できるように、数や色、形を伝えることができたか、贈りたい相手の好みに合ったカードを紹介することができたかという視点で、ワークシートを活用して振り返りをする。 【研究内容3】</p> <p>・最後にカードを贈る様子をまとめの姿として撮影し、授業支援アプリで提出することで、評価の記録を残す。</p> <p>・終末のコメントでは、“This is a ~ card.”や“This is for you.”などをはっきりとした声で伝えている言語面での姿を価値付ける。また、カードに使った材料を詳しく伝えようとしている内容面での姿を価値付ける。 【研究内容3】</p> <div data-bbox="826 1832 1465 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の評価規準】</p> <p>相手にグリーティングカードを贈るために、カードに使った数や色、形について詳しく紹介している。 <話すこと (発表) 思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「Unit7 This is for you. 」

場 所：3年2組教室

2. 学習到達目標

話すこと【やり取り】

自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交え、サポートを受けながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

話すこと【発表】

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、小集団の前で話すことができる。

3. 単元の目標

相手の好みに合ったグリーティングカードを贈るために、好きなものや欲しいものの数や色、形を尋ねたり答えたりして伝え合い、出来上がったカードを相手に伝わるように工夫しながら紹介することができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと【やり取り】ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」を中心に指導するものである。

本単元では、数や色、形を題材として扱う。それらを使って「相手に伝わるように工夫しながら、好みに合ったカードを贈る」活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養うことをねらいとしている。そこで、「相手の好みに合ったカードを贈る」という単元全体の目的を設定し、そのために数や色、形の言語を習得したり、それを使って欲しいものを探ねたり答えたりする場や相手に伝わるように工夫しながらカードを紹介する場を設ける。

第4時では、相手の好みに合ったカードを作るために、「What shape do you want?」「I want (red diamonds), please.」「How many?」などの表現を用いて好きなものや欲しいものなどについて伝え合うことができるようにする。

<児童観>

児童は、これまでの単元を通して、数や色、野菜や果物、身の回りの物などの語句とともに、自分の好みを伝えたり、相手の好みを尋ねたりする表現に慣れ親しんでいる。しかし、自分の思いを伝え合う場面では、十分な定着が図れておらず、既習表現を忘れていた児童も多い。

児童に行ったアンケートでは、「英語は好きですか」という質問に対し、95%以上の児童が「とても好き」「まあまあ好き」と答えている。その一方で、「相手に自分の欲しいものを英語で伝えることができますか」や「相手に何が欲しいか英語で聞くことができますか」という質問に対して、「英語で伝えることができます」と答えた児童は、それぞれ46%と50%だった。

そこで本単元では、「What shape do you want?」や、「I want～」という表現を繰り返し話す場面を設定することで定着を図り、単語だけの発話から文章での会話ができるようにし、児童が自他の伸びや変容を実感できるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達

目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「相手の好みに合ったカードを贈るために、「What shape do you want?」や、「I want～」などの文章表現を用いて、好きなものや欲しいものを伝え合ったり、相手に伝わるように工夫しながらカードを紹介したりすることができる」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を5時間で構成する。第1時と第2時では、数や色、形に慣れ親しむ活動を設定する。第3時では、グリーティングカードを作るために、相手の好みを調べる活動を行い、第4時でカードの材料を集める。第5時では、相手に伝わるようにカードを紹介する活動を行う。

単元を通して、繰り返し数や色、形の表現に慣れ親しむことで、児童の自信や意欲を育み、カードを紹介できるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う

言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時において、グリーティングカードを作るための材料を集める活動を設定することで、「相手の好みに合ったカードを作る」という目的意識とカードを贈るペアという相手意識をもてるようにする。

【研究内容2—(2)(3)】

ペアの好みに合うカードを作ることができるよう、ICT教材を使用する。この教材は、7つの形を8色で表すことができ、それらの数、大きさや配置、向きも変えることができる。これを使ってモデルカードを提示することで、様々な言語材料に興味をもって触れることができるようにする。

また、数や色を変更することも容易なことから、即興的にカードの材料を集めることができるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、グリーティングカードが互いの好みに合ったものかを確認し、数と色、形を組み合わせた語句を用いて相手に伝えようとする児童を価値付けて、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末では、相手の要望に合わせて画面上で操作していた児童や自分の欲しいものに合わせて詳しく伝えていた児童の姿を紹介する。また、出来上がったカードについて振り返ることで本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容3—(3)】

どうやって自分の思い通りに材料を集めたり渡したりすることができたかを、振り返りシートを使って記録し、児童の達成度を見届けることができるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What shape do you want? I want (red diamonds). How many? (Ten), please. This is for you. Here you are. Thank you. You're welcome.	形 : circle, triangle, square, rectangle, diamond, heart, star 色 : white, black, red, pink, purple, blue, green, yellow 数 : one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten 状態 : big, small

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・カードに使われている形の名前や数、色を表す語、“What shape do you want?” “How many?”などの表現について理解している。	・相手の好みに合ったカードを作るために、必要な数や色、形について、伝え合っている。	・相手の好みに合ったカードを作るために、必要な数や色、形について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
話すこと(発表)	・形の名前や数、色を表す語や、“This is ~.” “I like ~.”などを用いて、相手の好みに合ったグリーティングカードについて話す技能を身に付けている。	・出来上がったカードを、相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介している。	・出来上がったカードを、相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介しようとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 相手の好みに合ったグリーティングカードを作って、紹介しながら贈ろう。

時	目標	Teachers' Topic	知技	思判表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	形を表す語彙について ALT の英語の発音を聞き取り、ゲーム活動を通して、形の言い方に慣れ親しむことができる。	グリーティングカード紹介 S: What shape do you want? T: I want a circle. S: I want a circle. I want a circle. I want a circle. I want a circle..	○			ゲーム活動を通して、形を表す語彙を聞き取り、形の言い方を理解している。 【聞くこと 知・技】 行動観察・振り返り
2	数や色、形の名前の英語表現に親しみ、絵を見て形の名前と色、その数を尋ねたり答えたりすることができる。	カード当てクイズ S: What shape do you want? T: I want black stars. S: How many? T: Two, please. S: Is this OK? T: That's right.	○			数や色、形の名前の英語表現を伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察・振り返り
3	相手の好みを知るために、相手や自分の好きな色や形について尋ねたり、答えたりすることができる。	世界のグリーティングカードの紹介 A: What color do you like? B: I like blue. A: What shape do you like? B: I like stars. A: What do you like? B: I like cats. A: OK. Thank you.	◎		○	相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、互いの考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 行動観察・ワークシート

時	目標	Teachers' Topic		主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例	知技		
4 本時	「グリーティングカード作り」の活動を通して、相手や自分の欲しい色や形、その数について尋ねたり、答えたりすることができる。	ALT へのグリーティングカード作り A: Hello. What color do you want? B: I want red. A: OK. What shape do you want? B: I want triangles. A: How many? B: Three, please. A: OK. Here you are. B: Thank you.. A: You're welcome.		◎ ○	相手の好みに合わせたグリーティングカードを作るために、相手や自分が欲しい色や形、その数について、互いに伝え合っている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 行動観察・振り返り
5 3-1	相手の好みに合ったグリーティングカードを贈るために、カードを紹介する活動を通して、カードに使った数や色、形について、詳しく伝えることができる。	学年の先生へ送るカードの紹介 A: This is a super card. A red rectangle, two blue circles, a big black triangle, and three yellow triangles. It's a rocket. This is for you. B: Wow, nice. I like red and black. Thank you.		◎ ○	相手にグリーティングカードを贈るために、カードに使った数や色、形について詳しく紹介している。 【話すこと(発表) 思・判・表】 授業支援アプリ・振り返り

9. 単元における本時の捉え

本時は、相手の好みに合ったグリーティングカードを作るために、必要な材料を集める活動を行う。前時にペアの相手の好みの色や形について質問し、情報収集をしている。そこで本時は、その情報を活用しながら材料を集める活動を行う。色や形、数を表す英語表現や“What shape do you want?”や“I want ～.”などの表現を使って、詳しく伝え合うことができる姿を目指す。

10. 本時の目標（4/5）

「グリーティングカード作り」の活動を通して、相手や自分の欲しい数や色、その形について尋ねたり、答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. <u>Greeting</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てくてくじゃんけん」を歌う。 ・天気や気分、曜日についての質問に答える。 <p>2. <u>Teachers' Topic</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のやり取りを聞いて、本時の TASK をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK 相手によるこんでもらえるグリーティングカードを作るために、ざいりょうをわたしたり、集めたりしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がグリーティングカードを作る様子を示すことで、本時のゴールの姿を示す。そして、「相手の好みに合ったグリーティングカードを作るため」という本単元の目的を確認して本時の TASK につなげる。 【研究内容2】
<p>3. <u>Activity</u></p> <p>① やり取り（1）</p> <p>Shopkeeper と Customer を交代して行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Hello. What color do you want? B: I want red. A: OK. What shape do you want? B: I want triangles. A: How many? B: Three, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. A: You're welcome.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・TASK を確認した後、まず活動に取り組むようにし、児童がどこまでできるか把握する。 ・ICT 教材を使用し、8色、7つの形で表されるスタンプの数や大きさ、配置や向きを変えて、カードに必要な材料を画面上に集められるように支援する。 【研究内容2】
<p>② 中間コメント（1）</p> <p>分からない表現を解決する。“What shape do you want?” “I want ～.” “How many?” といった表現を理解する。</p> <p>③ カードの確かめ</p> <p>集めたカードを整理して、相手の好みに合った材料を集めることができたか確認する。</p> <p>④ 中間コメント（2）</p> <p>追加する材料などを集める。</p> <p>⑤ やり取り（2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間コメント（1）では、児童の困り感を引き出し、児童同士で解決できるように、児童に疑問を投げかけて支援する。特に、want と like の区別がなくなっている児童へ違いや用途を確認する。 【研究内容3】 ・自分の作りたいカードの材料が好みに合った色や形になっているか贈るペアの児童に問う場を設定する。 【研究内容2】 ・中間コメント（2）では、ペアからの要望や、さらに喜んでもらえるカードにするために、即興的に形を追加したり、色を変えたりしている児童の姿を価値付ける。 【研究内容3】
<p>4. <u>Comment Time</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをシートに書く。 <p>「文章で会話して、自分の思い通りの形を集めることができた。」</p> <p>「相手の思いを確かめながら、相手の好みに合った色や形のカードを集めることができた。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や児童のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに、どうしたら自分の思い通りに材料を渡したり、集めたりできたかを書き、本時の学びが実感できるようにする。 【研究内容3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の評価規準】</p> <p>相手の好みに合わせたグリーティングカードを作るために、相手や自分が欲しい色や形、その数について互いに伝え合っている。</p> <p><話すこと（やり取り）思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「Unit7 What do you want?」

場 所：4年1組教室

2. 学習到達目標

話すこと〔やり取り〕

自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

話すこと〔発表〕

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞き手の反応を確かめながら小集団の前で話すことができる。

3. 単元の目標

自分や仲間の好みに合ったパフェやピザを作るために、必要な果物や野菜などの食材やその味、その数について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったり、完成品を紹介し合ったりすることができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと〔発表〕ア「身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。」を中心に指導をするものである。

本単元では、身近な果物や野菜などの食材の名前とその数、大きさについて、欲しいものを尋ね合ったり、それらを紹介したりする表現を扱う。児童はこれまでに、1年生時に身近な果物、2年生時に身近な野菜の表現に慣れ親しんできている。3年生時には、身近な食べ物や、本単元で扱う「What do you want?」「I want～」等の表現を用いて友達の好きな形や色を使ったカード作りを行っている。

これらの既習表現を活用し、本単元では、身近な果物や野菜などの食材を使って、自分の好みに合うパフェや仲間の好みに合うピザを作ったり、完成品が相手に伝わるように工夫しながら紹介したりすることができるようにする。

<児童観>

これまで児童は、お互いの好きな曜日や時間を尋ね合ったり、どんな遊びをしたいか誘い合ったりするなど、仲間と外国語でのやり取りを楽しんできた。新出語彙や表現の仕方では分からない時には、タブレットで音声を確認したり、仲間に聞いたりしながら、新しい語彙を習得できるようにしてきた。

児童に行ったアンケートでは、「ALTと話をしたり、ALTの話の聞いたことは楽しいですか。」という質問に対し、92%の児童が、「とてもそう思う。」「まあまあそう思う。」と答えている。

その一方で、「果物の英語が分かりますか。」という質問に対し、「あまり分からない。」「分からない。」と答えた児童は17%、「野菜の英語が分かりますか。」という質問に対し、「あまり分からない。」「分からない。」と答えた児童は39%もいた。また、「英語で何が欲しいかと尋ねることができますか。」という質問に対し、75%の児童が「ヒントや助けが必要だ。」と回答し、「英語で欲しいものを伝えることができますか。」という質問に対し、53%の児童が「ヒントや助けが必要だ。」と回答した。

そこで、本単元では、児童の実態を見ながら、本時使いたい表現を随時指導することで、十分に活動の内容ややり取りの仕方を理解して、自信をもってコミュニケーションを図ることができるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「仲間の好みに合ったピザを作る活動を通して、「This is an original pizza.」などの表現を用いて完成したピザを紹介し合うことができる。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を5時間で構成する。第1時では、食材や、その味について、正しく聞き取る活動を設定する。第2時では、果物の言い方やフルーツパフェに合う味の表現に慣れ親しむ。第3時では、自分の好みに合ったパフェを作り、紹介する活動を行う。第4時では、野菜や食べ物の言い方や、ピザに合う味の表現に慣れ親しむ。第5時では、仲間の好みに合ったピザを作り、紹介する活動を行う。

単元を通して、欲しいものを尋ね合ったり作ったものの紹介をしたりする活動を繰り返し行うことで、何が欲しいか伝え合ったり、完成品を紹介し合ったりできるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う

言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

自分が作ったパフェの良さを、たくさんの仲間にも知ってもらえるように紹介するという活動を設定する。相手に良さが伝わるように、既習の表現を使ってパフェの良さを伝えられるようにしていく。

【研究内容2—(2)(3)】

第3時では、デジタル教材を活用して、自分の好みに合うパフェを作り、作成したパフェの画像をICT教材で仲間と共有する。

また、授業支援アプリに音声付きの絵カードを作成することで、困った時に自分で言い方を確認できるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、自分のパフェの良さが仲間に伝わるように、既習の形容詞や数などを用いて伝えている児童を紹介する。それによって、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

中間コメントを受け、自分の紹介の様子がどう変わったのか、振り返りシートを活用することで、本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容3—(3)】

自分の好みに合ったパフェを紹介の様子を撮影し、授業支援アプリで提出する。記録に残すことで、単元の目標に対する到達度を見届けしやすくする。また、その記録を活用して今後の指導へとつなげていく。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What do you want? I want (onions), please.. How many? (Two), please. I have ~. This is ~. It's ~. What ~ do you like? I like ~.	果物: melon, peach, banana, apple, cherry, orange, pineapple, strawberry, kiwi fruit 野菜: onion, mushroom, green pepper, tomato, corn, asparagus 食べ物: ice cream, sausages, chicken, salami, shrimp, bacon, cheese, egg 味等: delicious, sweet, healthy, greasy, cheesy, colorful 数 : one, two, three, four, five

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・好みに合うパフェやピザについて、必要な果物や野菜などの食材の名前や、欲しいものを探ねたり答えたりする表現を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
話すこと(発表)	・好みに合うパフェやピザについて、必要な果物や野菜などの食材の名前や、欲しいものを探ねたり答えたりする表現、完成品を紹介する表現を用いて、話す技能を身に付けている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味などの表現を用いて、完成品について話している。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味などの表現を用いて、完成品について話そうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: クリスマスパーティーで楽しめる自分や友達の好みに合ったパフェやピザを作って紹介しよう。

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	外国と日本の市場を比べて相違点に気付くとともに、ゲームを通して果物や野菜、味などについて、ALTの英語の発音を聞き取り、その言い方に親しむことができる。	ALTの国のスーパーマーケット A: What do you want? B: I want an apple and two carrots, please. A: Here you are. B: Thank you.	○			果物や野菜、味などを表す語彙を聞き取り、それらの英語での言い方を正しく理解している。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察
2	いろいろな果物の言い方や、果物の味の言い方に慣れ親しみ、味や数を表す表現を用いながら、欲しい果物について探ねたり答えたりすることができる。	世界の珍しいフルーツ A: What do you want? B: I want apples, please. A: Apples? Why? B: It's sweet. A: I see. How many apples? B: Two, please. A: Two? OK!	◎			自分が欲しい果物について、味や数を用いながら、探ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 テキスト・ワークシート 行動観察
3 本時	自分の好みに合ったパフェを作り、その良さを伝えることができるように、詳しく紹介することができる。	教師の作ったオリジナルパフェ A: This is my parfait. I have five strawberries and three bananas. It's delicious. What do you think? B: Oh, nice! I like strawberries. A: I see. Thank you.		◎	○	完成した自分の好みのパフェについて詳しく紹介している。 【話すこと(発表) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察 ワークシート

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時まで学習した果物などの名前や数、形容詞、“This is~.” “I have ~.”といった表現を用いて、完成した自分の好みのパフェについて紹介する活動を行う。そこで、味や見た目といった魅力を仲間に伝えるように工夫しながら発表できる姿を目指す。

10. 本時の目標 (3/5)

自分の好みに合ったパフェを作り、その良さを伝えることができるように、詳しく紹介することができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> English leader と挨拶をしたり、天気や曜日などの質問に答えたりする。 ALT や HRT と挨拶する。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT がオリジナルパフェを、ALT に紹介する様子を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>TASK オリジナルパフェの良さを、友達にたくさん知ってもらえるようにしようかいしよ。</p> </div> <p>3. Activity</p> <p>①前時に買った果物を使って、タブレット上に自分の好みのパフェを作る。</p> <p>②完成したパフェを紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A : This is my parfait. I have strawberries and bananas. What do you think? B : Oh, nice! I like strawberries. A : I see. Thank you. A と B で入れ替わる。</p> </div> <p>③ペアで自分の好みに合ったパフェを紹介する。</p> <p>④中間コメント (1)</p> <p>⑤ペアを変えて紹介し合う。</p> <p>⑥中間コメント (2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A : This is my parfait. I have five strawberries and three bananas. It's delicious. What do you think? B : Oh, nice! I like strawberries. A : I see. Thank you. A と B で入れ替わる。</p> </div> <p>⑦ペアを変えて紹介し合う。</p> <p>⑧初めに話したペアに戻り、自分の好みに合ったパフェを紹介する様子を撮影し合う。</p> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをシートに書く。 「果物の数や見た目を詳しく言ったら、〇〇さんが気に入ってくれてうれしかった。」 「最初は“This is~.”しか使えなかったけど、自分の作ったパフェの果物の数や味を言えるようになった。」 児童や教師のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時扱う表現を使って、児童を巻き込みながら会話する。 買った果物でパフェを作ることを確認する。その後 HRT が作ったパフェを既習の表現を使って紹介し、本時の TASK につなげる。 【研究内容 2】 デジタル教材を活用して、自分の好みに合うパフェを作ることができるようにするために、タブレット上の操作で困っている児童がいれば支援する。 分からない表現がある時は、タブレットの音声聞くように声をかける。 【研究内容 2】 中間コメント (1) では、児童の困り感から、本時使うとよい表現を全体で共有する。 【研究内容 3】 中間コメント (2) では、自分のパフェの良さが伝わるようにするためにはどうしたらよいか問いかける。“delicious”などの形容詞を使ったり、数を説明したりして紹介している姿や、“This is~.” や “I have~.”等の表現を用いて会話している姿を紹介し、TASK を再認識できるようにする。 【研究内容 3】 ⑧の活動では、パフェを紹介する様子を撮影し、授業支援アプリで提出し記録に残す。そうすることで、単元の目標に対する到達度を見届けしやすくする。 【研究内容 3】 ポイントに沿って、本時の学びを振り返る。自己の変容や、どのように紹介したら相手に気に入ってもらえたかなどに目を向けて振り返ることができるように声をかける。 【研究内容 3】 ALT は、“This is~.”や “I have~.”等の表現を用いて話していた児童の姿を価値付ける。 HRT は、オリジナルパフェの良さが伝わるように既習の表現を使用し、工夫して話していた児童の姿を価値付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>【本時の評価規準】 完成した自分の好みのパフェについて詳しく紹介している。 <話すこと (発表) 思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「Unit7 What do you want?」

場 所：多目的室

2. 学習到達目標

話すこと[やり取り]

自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

話すこと[発表]

自分のことや、身の回りの物、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ち、事実などを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞き手の反応を確かめながら小集団の前で話すことができる。

3. 単元の目標

自分や仲間の好みに合ったパフェやピザを作るために、必要な果物や野菜などの食材やその味、その数について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったり、完成品を紹介し合ったりすることができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと[発表]ア「身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。」を中心に指導をするものである。

本単元では、身近な果物や野菜などの食材の名前とその数、大きさについて、欲しいものを尋ね合ったり、それらを紹介したりする表現を扱う。児童はこれまでに、1年生時に身近な果物、2年生時に身近な野菜の表現に慣れ親しんできている。3年生時には、身近な食べ物や、本単元で扱う「What do you want?」「I want ~」等の表現を用いて仲間の好きな形や色を使ったカード作りを行っている。

これらの既習表現を活用し、本単元では、身近な果物や野菜などの食材を使って、自分の好みに合うパフェや仲間の好みに合うピザを作ったり、完成品が相手に伝わるように工夫しながら紹介したりすることができるようにする。

<児童観>

これまで児童は、お互いの好きな曜日や時間を尋ね合ったり、どんな遊びをしたいか誘い合ったりするなど、仲間と外国語でのやり取りを楽しんできた。新出語彙や表現の仕方から分からない時には、タブレットで音声を確かめたり、仲間に関わりながら、新しい語彙を習得できるようにしてきた。

児童に行ったアンケートでは、「ALTと話をしたり、ALTの話を聞いたりすることは楽しいですか。」という質問に対し、92%の児童が、「とてもそう思う。」「まあまあそう思う。」と答えている。また、「果物、野菜、食べ物の英語での言い方が分かりますか。」という質問に対し、92%の児童が「よく分かる。」「まあまあ分かる。」と答えている。その一方で、「英語で何が欲しいかと尋ねることが出来ますか。」という質問に対し、51%の児童が「ヒントや助けがあればできる。」「英語で欲しいものを伝えることが出来ますか。」という質問に対し、33%の児童が「ヒントや助けが必要だ。」と回答した。

そこで、本単元では、仲間と会話を繰り返し行う中で、児童の実態を見ながら本時使いたい表現を随時指導することで、十分に活動の内容ややり取りの仕方を理解して、自信をもってコミュニケーションを図ることができるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「仲間の好みに合ったピザを作る活動を通して、「This is an original pizza.」などの表現を用いて完成したピザを紹介し合うことができる。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を5時間で構成する。第1時では、食材や、その味について、正しく聞き取る活動を設定する。第2時では、果物の言い方やフルーツパフェに合う味の表現に慣れ親しむ。第3時では、自分の好みに合ったパフェを作り、紹介する活動を行う。第4時では、野菜や食べ物の言い方や、ピザに合う味の表現に慣れ親しむ。第5時では、仲間の好みに合ったピザを作り、紹介する活動を行う。

単元を通して、欲しいものを尋ね合ったり作ったものの紹介をしたりする活動を繰り返し行うことで、何が欲しいか伝え合ったり、完成品を紹介し合ったりできるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う

言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

果物だけでなく、野菜や他の食べ物にも目を向け、それらを使って、仲間の好みに合うピザを作るという活動を設定する。仲間が食べたいピザを作るという目的意識をもてるようにする。また、仲間の好みを詳しく知る必要があるため、相手意識をもった活動につなげることができるようにする。

【研究内容2—(2)(3)】

第5時では、デジタル教材を活用して、仲間の好みに合うピザを作り、作成したピザの画像を相手や全体と共有する。完成途中の児童の作ったピザを比べることで、さらに思考が広がり、意欲的に活動ができるようにする。

また、授業支援アプリに音声付きの絵カードを作成することで、困った時に自分で言い方を確認できるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、仲間が作った完成途中のピザについてペア同士で情報を共有し、さらに自分の欲しいものを伝えたり、仲間の好みに付け加えたりしている児童を紹介する。それによって、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

本時の終末において、ピザを全体で紹介し合う場を設定することで、仲間の好みに合わせたピザを紹介することができた姿を価値付ける。また、仲間の好みに合わせて、どこにこだわってピザを作ったのか振り返りシートを活用することで、本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容3—(3)】

ピザを紹介する様子を撮影して記録に残すことで単元の目標に対する達成度を見届けしやすくする。また、その記録を活用して今後の指導へとつなげていく。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What do you want? I want (onions), please. How many? (Two), please. I have ~. This is ~. It's ~. What ~ do you like? I like ~.	果物: melon, peach, banana, apple, cherry, orange, pineapple, strawberry, kiwi fruit 野菜: onion, mushroom, green pepper, tomato, corn, asparagus 食べ物: ice cream, sausages, chicken, salami, shrimp, bacon, cheese, egg 味等: delicious, sweet, healthy, greasy, cheesy, colorful 数 : one, two, three, four, five

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・好みに合うパフェやピザについて、必要な果物や野菜などの食材の名前や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を用いて、伝え合う技能を身に付けている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
話すこと(発表)	・好みに合うパフェやピザについて、必要な果物や野菜などの食材の名前や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現、完成品を紹介する表現を用いて、話す技能を身に付けている。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味などの表現を用いて、完成品について話している。	・自分の好みに合うパフェや、仲間の好みに合うピザを作ったり、それを紹介したりするために、必要な果物や野菜などの食材、その数や味などの表現を用いて、完成品について話そうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: クリスマスパティーで楽しめる自分や友達の良いものに合ったパフェやピザを作って紹介しよう。

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	外国と日本の市場を比べて相違点に気付くとともに、ゲームを通して果物や野菜、味などについて、ALTの英語の発音を聞き取り、その言い方に親しむことができる。	ALTの国のスーパーマーケット A: What do you want? B: I want an apple and two carrots, please. A: Here you are. B: Thank you.	○			果物や野菜、味などを表す語彙を聞き取り、それらの英語での言い方を正しく理解している。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察
2	いろいろな果物の言い方や、果物の味の言い方に慣れ親しみ、味や数を表す表現を用いながら、欲しい果物について尋ねたり答えたりすることができる。	世界の珍しいフルーツ A: What do you want? B: I want apples, please. A: Apples? Why? B: It's sweet. A: I see. How many apples? B: Two, please. A: Two? OK!	◎			自分が欲しい果物について、味や数を用いながら、尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 テキスト・ワークシート 行動観察
3 4-1	自分の好みに合ったパフェを作り、その良さを伝えることができるように、詳しく紹介することができる。	教師の作ったオリジナルパフェ A: This is my parfait. I have five strawberries and three bananas. It's delicious. What do you think? B: Oh, nice! I like strawberries. A: I see. Thank you.		◎	○	完成した自分の好みのパフェについて詳しく紹介している。 【話すこと(発表) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察 ワークシート

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
4	いろいろな野菜や食べ物の言い方や、それらの味の言い方に慣れ親しみ、仲間が欲しいピザの具について尋ねたり答えたりすることができる。	ALTの国にあるピザ ----- A: What vegetable do you want? B: I want tomato and corn. A: How many? B: Two tomatoes and five corns. A: What food do you want? B: I want chicken and salami. A: How many? B: Three chickens and five salamis.	○		○	仲間の好みに合うピザを作るために、必要な野菜や食べ物を尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと（やり取り） 知・技】 テキスト・ワークシート 行動観察
5 本時	仲間の好みに合うピザを作り、仲間に喜んでもらえるように、ピザの中身を詳しく紹介することができる。	教師の作ったオリジナルピザ ----- A: This is an original pizza. I have three chickens, two sausages, five cheeses, and two salamis. It's cheesy and delicious. What do you think? B: I want three tomatoes. A: OK. Here you are. B: Nice! Thank you.		◎	○	完成した仲間の好みに合うピザについて詳しく紹介している。 【話すこと（発表） 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察 振り返り

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに学習した野菜などの名前や数、“This is an original pizza.” “I have three chickens.”といった表現を用いて、自分が作った仲間好みのピザを紹介したり、相手に感想を伝えたりする活動を行う。相手が喜んでもらえるように考え、ピザの具材を詳しく話すことができる姿を目指す。

10. 本時の目標（5/5）

仲間の好みに合うピザを作り、相手に喜んでもらえるように、ピザの中身を詳しく紹介することができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> English leader と挨拶をしたり、天気や曜日などの質問に答えたりする。 <p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT が ALT の好みに合わせて作ったピザを紹介する。 より良いピザの紹介の仕方を考えながら、本時の TASK をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> HRT が ALT の好みに合わせて作ったピザを紹介の様子から、本時の活動の内容を理解し、本時の TASK につなげる。 【研究内容2】
<p>TASK 仲間に喜んでもらえるオリジナルピザを作って、しょうかいしよう。</p>	
<p>3. Activity</p> <p>①仲間の好みに合ったピザを作る。 ②役割を交代して、ピザ紹介を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: This is an original pizza. I have three chickens, two sausages and five cheeses. It's cheesy and delicious. Here you are.</p> <p>B: Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ピザを紹介し合う活動では、児童の様子を見ながら、“This is an original pizza.” や “I have” の表現が使えていない場合、単語の言い方で困っている場合等、必要に応じて、活動を止めて指導する。 中間コメント（1）では、児童の困り感を共有し、解決へと導く。また、さらに仲間の好みに合うピザを作るために、“What do you think?” と尋ねると良いことを促す。そうすることで本時の TASK を再認識できるようにする。 【研究内容3】
<p>③中間コメント（1） ④もう一度、ピザを紹介し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: This is an original pizza. I have three chickens, two sausages, five cheeses and two salamis. It's cheesy and delicious. What do you think?</p> <p>B: I want three tomatoes.</p> <p>A: OK. Here you are.</p> <p>B: Nice! Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 中間コメント（2）では、相手に喜んでもらえるように、相手の好みに合う具材をたくさん入れたり、相手の好きな味にしたりする等のピザを作ると良いことを共通理解し、仲間から他者へと相手意識を広げて⑥の活動に入れるようにする。 【研究内容3】
<p>⑤中間コメント（2） ⑥仲間以外に作りたい人を考え、その人に向けてピザを作り、授業支援アプリで撮影して、ピザを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑥の活動では、ピザを紹介する様子を撮影して記録に残すことで、単元の目標の達成度を見届けやすくし、その記録を今後の指導へとつなげていく。 【研究内容3】
<p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをプリントに書く。 「〇〇さんのために、お肉たっぷり greasy pizza を作ることができました。」 「〇〇さんは、野菜を増やしてと言っていたので、多めに入れました。」 「〇〇さんは、最初は、野菜の言い方に困っていたけど、後半では、スラスラ言えていてすてきでした。」 教師や児童のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 終末のコメントでは、作ったピザを全体で紹介する場を設定し、相手の好みに合わせたピザを紹介することができた姿を価値付ける。 【研究内容3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の評価規準】 完成した仲間の好みに合うピザについて詳しく紹介している。 <話すこと（発表）思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「 Lesson6 What would you like? 」

2. 学習到達目標

場所 : 多目的室

聞くこと

ゆっくりと英語特有の音やリズム、イントネーション等を聞き分けながら、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などを参考にして、必要な情報を得ることができる。

話すこと [やり取り]

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを聞き手の理解を確かめながら、既習表現を用いて質問したり、質問に答えたりすることができる。

3. 単元の目標

ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、質問したり、丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元では、外国語の目標の話すこと [やり取り] ア「基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする」を中心に指導をするものである。

本単元では、場面に応じた丁寧な表現を扱う。児童はこれまでの単元を通して、「What~do you want?」「I want~.」の表現に慣れ親しんできている。本単元では、「What would you like?」「I'd like~.」などの表現を用いて、料理の注文やお金のやり取りをし合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、店員は、料理の特徴を伝えたり、料理を勧めることができるようにする。客は、ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理を注文したり、値段を伝えたりすることができるようにする。

<児童観>

英語の時間におけるコミュニケーションの場面では、相手の発話に対し、「Why?」や「Do you like~?」など、内容を深めたり会話を膨らませたりしながら会話する姿が見られる。

児童に実施したアンケートから、「英語で会話するとき意識していることは何ですか。」という質問に対し、9.0%以上の児童が、「なるべく英語で話そうとすること。」と回答している一方で、「文で話すこと。」と答えた児童が3割と、文で会話をしよう意識している児童は少ない。しかし、「会話する時、もっとできるようになりたいことは何ですか。」の質問に対して、「文で話すこと。」と回答している児童が一番多いことが分かった。

そこで、本単元では、学習した表現や既習表現を活用して話す場面を繰り返し設定し、身に着けたい表現の定着を図り、どの児童も自信をもって対話できるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童は、「ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、「What would you like?」「I'd like~」などの表現を用いて、注文する料理を考えながら買い物のやり取りをしている」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を8時間で構成する。第1時~第4時では、食べ物や飲み物などの語彙や丁寧な注文表現、値段などについて、質問したり伝え合ったりできるようにする。第5時~第6時で、それらの語彙や表現を使ってホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するための活動を行う。

単元を通して、ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、繰り返し、丁寧な表現での注文の仕方や値段などについて尋ねたり答えたりできるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う

言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

「ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する。」という目的で言語活動を行う。そのため、ALT や参加者の好みや苦手を踏まえた注文をする必要がある。

本時は、持っていくものを注文するための丁寧な表現に加え、食べ物や材料や味などを尋ねる表現等、既習表現を使って自分の希望にあった料理を購入するという活動を行う。

【研究内容2—(2)】

単元の終末では、ALT が開催するホームパーティーに合うように、ALT や参加者の好みや欲しいものも言語材料として扱うことで、児童がALT や参加者への思いを明確にして活動できるようにする。

【研究内容2—(3)】

授業支援アプリを活用し、商品を購入する際、お金や商品を送り合う。また、単語が分からない時には、授業支援アプリにある絵カードで音声を確認できるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、「既習表現を使って会話を広げている児童」や「ホームパーティーのための食べ物や飲み物を注文している児童」の姿を取り上げ、目的や状況を考えながら注文している児童を価値付け、全体に広める。

【研究内容3—(2)】

終末の振り返りでは、予算の中でALT や参加者の好みに合った食べ物や飲み物などを買うことができたかを、児童同士や全体で確認し、本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容3—(3)】

第7時で購入した商品をALT に伝える場を設定する。本単元の中で習得した「I'd like~.」を使って購入した商品を紹介することで本時の課題を達成しているか確認する。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What would you like? I'd like ~. How much is it? It's ~yen.	デザート : cake, parfait, ice cream, donut 味や特徴 : bitter, sweet, salty, sour, spicy, delicious, soft, hard, cold, hot 食べ物 : rice ball, hamburger, curry and rice, fried chicken, hot dog, omelet, pizza, noodle, salad, soup, spaghetti, sandwich 飲み物 : coffee, green tea, juice, mineral water, soda 数 : one, two..... hundred

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> “What would you like?” “I'd like~.” “How much is it?” “It's ~yen.”などについて理解している。 料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持つていく料理や飲み物を準備するために、料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持つていく料理や飲み物を準備するために、料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言い方で注文したり、会計したりする際の表現について理解している。 上記の表現を用いて、注文や値段を正しく伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持つていく料理や飲み物を準備するために、ALT や参加者の好みの料理や味、値段などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、食べ物を注文し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持つていく料理や飲み物を準備するために、ALT や参加者の好みの料理や味、値段などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、食べ物を注文し合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: ALT が開催するホームパーティーに持つていく料理や飲み物を準備しよう。

時	目標	Teachers' Topic/Small Talk	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	ALT や登場人物の発音を聞く活動を通して、やり取りのおおよその内容や表現を理解することができ、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付き、食べ物や飲み物などの言い方を理解することができる。	ALT の国のホームパーティーについて ※主な言語材料 What would you like? I'd like ~. How much is it? It's ~yen.	○			ALT や登場人物の発音を聞く活動を通して、やり取りのおおよその内容や表現を理解し、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付き、食べ物や飲み物などの言い方を理解している。 【聞くこと 知・技】 振り返り・行動観察
2 5-2	“What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をすることができる。	What fast food do you like? A: What would you like? B: I'd like a hamburger. A: OK. Here you are. B: Thank you.		◎		“What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をしている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 振り返り・行動観察
3	料理の値段や味について尋ねたり答えたりする活動を通して、“How much is it?” “It's ~yen.”等の表現を理解することができ、料理の値段を正しく聞き取ったりすることができる。	ALT の国の伝統料理について ☞ (I'd like~.) A: Hello. What would you like? B: I'd like curry and rice. How much is it? A: It's 200 yen. B: OK. Here you are. B: Thank you.		○		料理の値段を尋ねたり答えたりする活動を通して、“How much is it?” “It's ~yen.”等の表現を使い、料理の値段を相手に正しく伝えたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりしている。 【聞くこと 知・技】 授業支援アプリ・行動観察

時	目標	Teachers' Topic/Small Talk	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】
		主な活動における児童の発話例				※太枠：記録に残す評価を行う
4	自分が注文したい料理の値段や味について尋ねたりする活動を通して、相手に正しく値段を尋ねたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりして、注文することができる。	What food do you like? ----- A: Hello. This is the menu. What would you like? B: I'd like curry and rice. How much is it? A: It's 450 yen. B: OK. Here you are. B: Thank you. ☎ (How much is it?)				自分が注文したい料理の値段や味について尋ねたりする活動を通して、相手に正しく値段を尋ねたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりして、注文している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
5	自分がホームパーティーに持参するための料理を注文する活動を通して、料理の味や値段などを尋ね、丁寧な表現で注文したり、販売したりすることができる。	What food do you like? ----- A: Hello. What would you like? B: I'd like pancakes and ice cream. I like sweet food. A: We have strawberry pancakes and chocolate ice cream. B: I'd like strawberry pancakes and chocolate ice cream. How much is it? A: It's 800 yen. B: Here you are. A: Thank you.				ホームパーティーに持参するための料理を選ぶ活動を通して、料理の味や値段などを尋ね、丁寧な表現で注文したり、販売したりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 授業支援アプリ・行動観察
6 本時	ALTが開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の味や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALTや参加者の好みを考えながら、欲しい料理や飲み物を注文することができる。	What food do you like? ----- A: Hello. What would you like? B: I'd like a hamburger and orange juice. A: We have a <i>teriyaki</i> hamburger. It's delicious. Would you like the <i>teriyaki</i> hamburger? B: I'd like the <i>teriyaki</i> hamburger. How much is it? A: It's 700yen. B: Here you are. A: Thank you.				ALTが開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の味や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALTや参加者の好みを考えながら、欲しい料理や飲み物を注文している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
7	ALTが開催するホームパーティーに持っていくために準備した料理や飲み物をALTに説明することができる。	ALTの好みの料理について ----- ☎ (I'd like~.) A: This menu is for ルー先生. I'd like ~. I'd like ~. I'd like ~.				ALTが開催するホームパーティーに持っていくために準備した料理や飲み物をALTに説明している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
8	単元で学習したことを生かして、食べ物を大切にすることの取り組みについての話を聞いたり読んだりし、理解を深めることができる。	What snacks do you like? -----				世界と日本ではフードロスに対する問題にどのような取り組みをしているか理解を深め、自分たちにできることを考えている。 【聞くこと 知・技】 ワークシート・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、これまでの学習で習得してきた表現を使って、ALT が開催するホームパーティーへ持っていくための料理を注文する活動を行う。そのため、ALT や参加者の好みに合う料理になるよう、使われている食材や味、値段を尋ねたり、注文したりすることができる姿を目指す。

1.0. 本時の目標 (6/8)

ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の特徴や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALT や参加者の好みを考えながら、欲しい料理を注文することができる。

1.1. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> English leader を中心に HRT や ALT と挨拶をしたり、曜日、日にち、天気等についての質問に答えたりする。 <p>2. Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT が行うやり取りを見て、内容を理解し、「好きな料理」についてやり取りする。 <p>3. Activity</p> <p>①HRT と ALT のやり取りを見て、本時の活動を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK : ALT が開催するホームパーティーの参加者の好みに合った、料理や飲み物を注文しよう。</p> </div> <p>②本時のポイントを確認する。</p> <p>③A チームがお店を開く。B チームがお客さんになり買い物をする。</p> <p>④中間コメント</p> <p>⑤B チームがお店を開く。A チームがお客さんになり、買い物をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Hello. What would you like? B: I'd like a hamburger and orange juice. A: We have a <i>teriyaki</i> hamburger. Would you like the <i>teriyaki</i> hamburger? B: I'd like the <i>teriyaki</i> hamburger. How much is it? A: It's 700yen. B: Here you are. A: Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 天気や曜日のつづりを確認し、英単語の定着を図る。 まず、HRT と ALT のやり取りを見て、ALT がどのような料理や味が好きなかを児童と一緒に確認する。その後、ALT やホームパーティーの参加グループの好みを考えながら料理を注文することを確認し、本時の TASK につなげる。 【研究内容2】 条件に合った料理は何かを考えながら注文ができるように、自分や参加者の「好きなもの」や「苦手なもの」が入っているのかを店員に確かめたり、どんな味が尋ねたりする姿を見せる。 【研究内容2】 見通しをもって活動に取り組むことができるように、リストから注文するものを考える時間を設ける。 【研究内容2】 中間コメントは、活動の中で適宜入れていく。内容面では、ALT やホームパーティーの参加者の好みに合う料理や飲み物を注文するために、使われている食材や味について聞いたり、説明したりしているか、好みに合う料理を注文できているかを確認する。言語面では、“What would you like?” や “I'd like ~.”と文で対話しているかを確認する。 【研究内容2】 ALT は “What would you like?” “I'd like ~.” の表現や既習表現を正しく使って対話ができている児童を価値付ける。 HRT は、ALT や参加者の好みに合った料理や飲み物を注文していた児童を価値付ける。 【研究内容3】
<p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをプリントに書く。 「ALT と〇〇さんは、卵が好きだけどチーズは苦手と言っていたので、卵が入っていてチーズが入っていないサンドイッチを注文することができた。」 HRT や ALT、児童のコメントを聞く。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の評価規準】 ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の特徴や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALT や参加者の好みを考えながら、欲しい料理や飲み物を注文している。 <話すこと (やり取り) 思・判・表></p> </div>

1. 単元名 「 Lesson6 What would you like? 」

2. 学習到達目標

場所 : 多目的室

聞くこと

ゆっくりと英語特有の音やリズム、イントネーション等を聞き分けながら、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などを参考にして、必要な情報を得ることができる。

話すこと [やり取り]

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを聞き手の理解を確かめながら、既習表現を用いて質問したり、質問に答えたりすることができる。

3. 単元の目標

ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、質問したり、丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元では、外国語の目標の話すこと [やり取り] ア「基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする」を中心に指導をするものである。

本単元では、場面に応じた丁寧な表現を扱う。児童はこれまでの単元を通して、“What~do you want?” “I want~.” の表現に慣れ親しんできている。本単元では、“What would you like?” “I’d like~.” などの表現を用いて、料理の注文やお金のやり取りをし合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、店員は、料理の特徴を伝えたり、料理を勧めることができるようにする。客は、ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理を注文したり、値段を伝えたりすることができるようにする。

<児童観>

英語の時間には、場面に応じて自分の伝えたいことを表現できる児童が増えている。一方で、既習内容をうまく活用できず、言葉に詰まってしまう児童もいる。

事前アンケートで、英語の授業で好きなことを尋ねたところ、仲間との会話や ALT とのやり取りを挙げた児童が多かった。また、会話をするとき、「もっとできるようにになりたいことは何ですか。」の質問には、文章で話すことや、できるだけ英語で話そうとすることを挙げた児童が過半数を占めていた。

そこで、本単元で学習した表現や既習表現を活用して繰り返し話す場面を設定し、児童が自信をもって会話できるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容 1— (1)】

本単元の終末における願う児童は、「ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、“What would you like?” “I’d like~.” などの表現を用いて、注文する料理を考えながら買い物のやり取りをしている」である。

【研究内容 1— (2)】

本単元を 8 時間で構成する。第 1 時~第 4 時では、食べ物や飲み物などの語彙や丁寧な注文表現、値段などについて、質問したり伝え合ったりできるようにする。第 5 時~第 6 時で、それらの語彙や表現を使ってホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するための活動を行う。

単元を通して、ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、繰り返し、丁寧な表現での注文の仕方や値段などについて尋ねたり答えたりできるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容 2— (1)】

自分が食べたい料理を購入する活動を通して、目的を明確にし、希望を踏まえた上で、欲しい料理を丁寧に注文するための表現を身に付ける学習を行う。これにより、いろいろな店で自分の好みに合った料理を選び、適切に注文できるようにする。

【研究内容 2— (2)】

単元の終末では、ALT が開催するホームパーティーに合うように、ALT や参加者の好みや欲しいものも言語材料として扱うことで、児童が ALT や参加者への思いを明確にして活動できるようにする。

【研究内容 2— (3)】

授業支援アプリを活用し、商品を購入する場面では、店員が商品を送る。また、分からない単語がある時には、授業支援アプリの絵カードで音声を確認できるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容 3— (1)】

中間コメントでは、丁寧な注文表現が正しく使われているかを確認する。“I’d like~.”における would の脱落や、like と want の混用など、多くの児童が間違える部分を、全体で確認することで技能の定着と向上を図ることができるようにする。

【研究内容 3— (2)】

終末の振り返りでは、丁寧な注文表現が正しく使われていたかを児童同士や全体で確認し、さらに丁寧な表現を使って注文することの良さについて考えることで、本時の学びを実感できるようにする。

【研究内容 3— (3)】

料理を購入する側と、販売する側の様子を確認し、記録に残すことで、全体の課題の達成度を把握しやすく、指導へつなげる。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What would you like? I'd like ~. How much is it? It's ~yen.	デザート : cake, parfait, ice cream, donut 味や特徴 : bitter, sweet, salty, sour, spicy, delicious, soft, hard, cold, hot 食べ物 : rice ball, hamburger, curry and rice, fried chicken, hot dog, omelet, pizza, noodle, salad, soup, spaghetti, sandwich 飲み物 : coffee, green tea, juice, mineral water, soda 数 : one, two..... hundred

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> “What would you like?” “I'd like~.” “How much is it?” “It's ~yen.”などについて理解している。 料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、料理やその値段、味などについて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言い方で注文したり、会計したりする際の表現について理解している。 上記の表現を用いて、注文や値段を正しく伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、ALT や参加者の好みの料理や味、値段などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、食べ物を注文し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT のホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備するために、ALT や参加者の好みの料理や味、値段などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、食べ物を注文し合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備しよう。

時	目標	Teachers' Topic/Small Talk	知技	思判表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	ALT や登場人物の発音を聞く活動を通して、やり取りのおおよその内容や表現を理解することができ、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付き、食べ物や飲み物などの言い方を理解することができる。	ALT の国のホームパーティーについて ※主な言語材料 What would you like? I'd like ~. How much is it? It's ~yen.	○			ALT や登場人物の発音を聞く活動を通して、やり取りのおおよその内容や表現を理解し、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付き、食べ物や飲み物などの言い方を理解している。 【聞くこと 知・技】 振り返り・行動観察
2 本時	“What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をすることができる。	What fast food do you like? A: What would you like? B: I'd like a hamburger. A: OK. Here you are. B: Thank you.		◎		“What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をしている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 振り返り・行動観察
3	料理の値段や味について尋ねたり答えたりする活動を通して、“How much is it?” “It's ~yen.”等の表現を理解することができ、料理の値段を正しく聞き取ったりすることができる。	ALT の国の伝統料理について ㊦ (I'd like~.) A: Hello. What would you like? B: I'd like curry and rice. How much is it? A: It's 200 yen. B: OK. Here you are. B: Thank you.		○		料理の値段を尋ねたり答えたりする活動を通して、“How much is it?” “It's ~yen.”等の表現を使い、料理の値段を相手に正しく伝えたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりしている。 【聞くこと 知・技】 授業支援アプリ・行動観察

時	目標	Teachers' Topic/Small Talk	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】
		主な活動における児童の発話例				※太枠：記録に残す評価を行う
4	自分が注文したい料理の値段や味について尋ねたりする活動を通して、相手に正しく値段を尋ねたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりして、注文することができる。	What food do you like? ----- A: Hello. This is the menu. What would you like? B: I'd like curry and rice. How much is it? A: It's 450 yen. B: OK. Here you are. B: Thank you. 🗣️ (How much is it?)		○	○	自分が注文したい料理の値段や味について尋ねたりする活動を通して、相手に正しく値段を尋ねたり、自分の欲しい料理の値段を正しく聞き取ったりして、注文している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
5	自分がホームパーティーに持参するための料理を注文する活動を通して、料理の味や値段などを尋ね、丁寧な表現で注文したり、販売したりすることができる。	What food do you like? ----- A: Hello, What would you like? B: I'd like pancakes and ice cream. I like sweet food. A: We have strawberry pancakes and chocolate ice cream. B: I'd like strawberry pancakes and chocolate ice cream. How much is it? A: It's 800 yen. B: Here you are. A: Thank you.		○		ホームパーティーに持参するための料理を選ぶ活動を通して、料理の味や値段などを尋ね、丁寧な表現で注文したり、販売したりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 授業支援アプリ・行動観察
6 5-1	ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の味や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALT や参加者の好みを考えながら、欲しい料理や飲み物を注文することができる。	What food do you like? ----- A: Hello, What would you like? B: I'd like a hamburger and orange juice. A: We have a teriyaki hamburger. It's delicious. Would you like teriyaki hamburger? B: I'd like the teriyaki hamburger. How much is it? A: It's 700 yen. B: Here you are. A: Thank you.		◎	○	ALT が開催するホームパーティーに持っていく料理や飲み物を準備する活動を通して、料理の味や値段を尋ねたり、答えたりする表現を用いて、ALT や参加者の好みを考えながら、欲しい料理や飲み物を注文している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
7	ALT が開催するホームパーティーに持っていくために準備した料理や飲み物を ALT に説明することができる。	ALT の好みの料理について ----- 🗣️ (I'd like ~.) A: This menu is for ルー先生. I'd like ~. I'd like ~. I'd like ~.		○	○	ALT が開催するホームパーティーに持っていくために準備した料理や飲み物を ALT に説明している。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察
8	単元で学習したことを生かして、食べ物を大切にすることが大切にする取り組みについての話を聞いたり読んだりし、理解を深めることができる。	What snacks do you like? -----		○		世界と日本ではフードロスに対する問題にどのような取り組みをしているか理解を深め、自分たちにできることを考えている。 【聞くこと 知・技】 ワークシート・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、様々な種類の料理店が集まる「フードコート」で、客と店員に分かれて料理を注文する活動を行う。自分が開催するホームパーティーのための料理を注文するために、料理を選んでいく。注文する際には、“What would you like?” や “I'd like~.”といった丁寧な表現を使うことができる姿を目指す。

10. 本時の目標 (2/8)

“What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> English leader を中心に HRT や ALT と挨拶をしたり、曜日、日にち、天気等についての質問に答えたりする。 <p>2. Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT が行うやり取りを見て、トークテーマを把握し、好きなファストフードについてやり取りをする。 <p>3. Activity</p> <p>①HRT と ALT のやり取りを見て、本時の活動を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>TASK : 自分が食べたいと思う料理を丁寧に注文しよう。</p> </div> <p>②本時のポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欲しい料理を注文するために丁寧に注文する。 <p>③やり取り (1)</p> <p>④中間コメント (1)</p> <p>⑤やり取り (2)</p> <p>⑥中間コメント (2)</p> <p>⑦A チームがお店を開く。B チームがお客さんになり買い物をする。</p> <p>⑧中間コメント (3)</p> <p>⑨B チームがお店を開く。A チームがお客さんになり買い物をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: What would you like? B: I'd like a hamburger. A: OK. Here you are. B: Thank you.</p> </div> <p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをプリントに書く。 「丁寧な言い方で欲しい料理を注文することができた。」 HRT や ALT、児童のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 天気や曜日のつづりを確認し、英単語の習熟を図る。 Small Talk では、児童がお互いに話ができるように「どちらが好きか」や「何味が好きか」など、話題の広げ方を示し、児童を巻き込んでモデルを行う。 本時の TASK につなげられるように、HRT と ALT が、料理を丁寧に注文する場合と、丁寧ではない場合を示す。 【研究内容2】 中間コメントでは、児童の困り感を共有できるようにし、児童同士や全体指導で解決できるようにする。 中間コメント (1) により、“What would you like?”が言えるようにする。 中間コメント (2)・(3) で、“I like~.”ではなく“I'd like~.”と言えるようにする。 丁寧にお客さんに聞くために“What would you like?”と言ったり、“I'd like~”の表現を使って、丁寧に注文したりできるように、その姿を紹介し、その表現の価値を広げる。 【研究内容3】 多くの店を回って会話ができるように、各店には店主が考えた料理を用意する。 【研究内容2】 本時の学びを実感できるように、「自分の欲しいものを丁寧に注文できたか。」「丁寧に注文することの良さは何か。」という視点で振り返りを行う。 “What would you like?”や“I'd like~”の表現を使って、料理を丁寧に注文していた児童の姿を紹介し、評価する。 【研究内容3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 “What would you like?” “I'd like~.”の丁寧な表現を理解し、自分が食べたいと思う料理の注文をしている。 (話すこと (やり取り) 知・技) 振り返り・行動観察</p> </div>

1. 単元名 「Lesson5 Where do you want to go? 」

2. 学習到達目標

場 所：6年1組教室

聞くこと

ゆっくりはっきり話されれば、自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、
 ・聞き取りにくかったときに繰り返しを求めながら、相手の考えや気持ち、事実等の具体的な情報を聞き取ることができる。
 ・大切な言葉を手がかりにしながら、話の概要を捉えることができる。

話すこと【やり取り】

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、既習表現を用いて即興的に質問したり質問に答えたりすることができる。

3. 単元の目標

仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その国の魅力的なことについて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語科の目標の話すこと【やり取り】イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」を中心に指導するものである。

本単元では、国を題材として扱う。児童はこれまでの単元を通して、国名などの語彙や、したいこと・したくないことの表現、できること・できないことの表現には慣れ親しんでいる。本単元では、仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、“What do you want to do?”と尋ね、それをもとに“You can～”などの表現を用いて、おすすめする国の魅力を伝えることをねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、自分のしたいことやしたくないことを伝えたり、好みや要望に応じたおすすめの本を選択し考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

児童の多くは、英語の授業に前向きに取り組むことができている。また、ALT の話や Let's listen など英語を聞いたり、それに反応したりすることもできている。

一方で、自分の考えを仲間に伝える際に、自信がもてなかったり、何を伝えてよいのか分からなかったりする児童も多く、小さい声で発表する姿も見られる。

児童に行ったアンケートでは、「海外でしたいことや、食べたいものなどを仲間に伝えることができますが。」という質問をしたところ、20%が伝えることができないと答え、27%が少しならできると答えた。

そこで本単元では、話す場面を繰り返し設定し、自信をもって会話することができるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、“What do you want to do?”と尋ね、それをもとに“You can～”などの表現を用いて、おすすめする国の魅力を伝えている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元は8時間で構成する。第1時では、国名の言い方や行きたい国を伝える表現を知るための活動を行う。第2時と第3時では、自分の行きたい国とそこでしたいことを言えるようにする。第4時と第5時では、自分の行きたい国とそこでできることを言えるようにする。第6時には仲間と自分の行きたい国について伝え合う。第7時には、仲間とやり取りをして好みや要望を聞き出し、おすすめの本を紹介する。単元を通して、繰り返し国名やできること・したいことの表現を用いることで、表現を使いながら定着することができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するという活動を設定する。前時までに、仲間のやりたいことを聞いておくことで、おすすめできそうな国を考え、できることを紹介する意欲がもてるようにする。

【研究内容2—(2)】

児童が興味をもって取り組めるよう、実際の海外旅行のパンフレットやHPなどを参考にできるようにする。

また、それらを仲間に紹介する際に、授業支援アプリを使うことで、聞き手も興味をもって活動に取り組めるようにする。

【研究内容2—(3)】

国名や既習表現をいつでも振り返ることができるよう、授業支援アプリで音声データを配布する。

3. 学習改善や指導改善につながる学習評価

【研究内容3—(1)】

仲間の行きたい本を紹介できている児童に、「なぜその本を紹介しているのか」や「どのようなことができるのか」を確認し、仲間と合わせた考えができていることを価値付け、全体に広める。

【研究内容3—(2)】

Comment time で、仲間の行きたい本を紹介していたペアを取り上げ、本時の学習を確認できるようにする。

振り返りカードには、仲間から紹介されたことや自分が紹介するためにどんなことを工夫したのかを書くことで、自分や仲間の姿容を実感することができるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
Where do you want to go? I want to [go/see/watch/eat/buy/visit]~. You can [see/watch/eat/buy/visit]~. Why?	国名: Finland, Italy, Kenya, China, Korea, the U.S.A the U.K., Brazil, Australia, Egypt, Sweden, India... 世界遺産: Iguazu Falls, the Colosseum, Easter Island...

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	・行きたい国や、そこでしたいこと・できることを伝える表現について理解している。	・仲間のことをよく知るために、行きたい国とその理由について、短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、概要を捉えたりしている。	
話すこと(やり取り)	・上記の表現や既習表現を用いて、おすすめの本の魅力や魅力を伝え合う技能を身に付けている。	・仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、それぞれの国の魅力的なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	・仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、それぞれの国の魅力的なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 仲間の好みや要望に合わせて、観光するのにおすすめの国を紹介しよう。

時	目標	Teachers' Topic / Small Talk	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】
		主な活動における児童の発話例				※太枠: 記録に残す評価を行う
1	世界の様々な国の言い方や行きたい国を伝える表現を理解することができる。	HRTとALTの行きたい国やしたいことについて ※主な言語材料 Where do you want to go? I want to [go/see/watch/eat/buy/visit]~. You can [see/watch/eat/buy/visit]~.	◎			世界の様々な国の言い方や行きたい国を伝える表現を理解している。 【聞くこと 知・技】 振り返り・行動観察
2	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを伝え合う表現を理解することができる。	買いたいものについて A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: Why? B: Because I want to eat delicious pizza. A: Sounds good.	○			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを伝え合う表現を理解している。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察
3 6-2	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりすることができる。	週末にしたいことについて A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: What do you want to do? B: I want to eat delicious pizza. I want to see the Colosseum. A: Sounds good. (◎ I want to go to Italy. I want to eat delicious pizza.)	◎			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り) 知・技】 授業支援アプリ・行動観察
4	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを伝え合う表現を理解することができる。	家に帰ったらしたいことについて A: I want to go to Italy. B: Why? A: Because you can eat delicious pizza. You can see the Colosseum. Italy is an exciting country. B: Sounds good. I want to eat pizza.	○			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを伝え合う表現を理解している。 【話すこと(やり取り) 知・技】 テキスト・行動観察

時	目標	Teachers' Topic / Small Talk	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
5	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを尋ねたり答えたりすることができる。	訪れてみたい場所について ----- A: I want to go to Italy. B: Why? A: Because you can eat delicious pizza. You can see the Colosseum. Italy is an exciting country. B: Sounds good. I want to eat pizza. (◎ You can eat delicious pizza. You can see the Colosseum.)	○		○	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 授業支援アプリ・行動観察
6	仲間のことをより詳しく知るために、行きたい国とその国の魅力を伝え合うことができる。	HRTとALTの行きたい国やしたいことについて ----- A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: Why? B: Because I like pizza. I want to eat tomato pizza. I want to see the Colosseum. A: Sounds good.		○	○	仲間のことをより詳しく知るために、行きたい国とその国の魅力を伝え合っている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】授業支援アプリ・行動観察
7 本時	仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめた国でできる魅力的なことを即興的に伝え合うことができる。	食べたいものについて ----- A: I want to eat delicious food. B: Anything else? A: I want to watch sports. B: What food do you like? A: I like sweet foods. B: OK. Please visit Italy or Spain. You can eat tiramisu, pasta and pizza in Italy. You can watch soccer game in Spain. A: I see. Thank you.		◎	○	仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめた国でできる魅力的なことを即興的に伝え合っている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】行動観察
8	世界遺産について、話の概要を捉えたり読んだりして、世界と日本の文化の理解を深めることができる。	ALTの国の世界遺産について -----	○			世界遺産について、話の概要を捉えたり読んだりして、世界と日本の文化の理解を深めている。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに仲間から聞いたやりたいことを参考にし、仲間の好みに合った国を紹介する活動を行う。客は、どんなことができるのかを尋ねたり、店員は、できることやおすすめの国を答えたりして、即興的に対話する姿を目指す。

10. 本時の目標 (7/8)

仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめした国でできる魅力的なことを即興的に伝え合うことができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p><u>1. Greeting</u></p> <ul style="list-style-type: none"> English leader を中心に HRT や ALT と挨拶をしたり、曜日、日にち、天気等についての質問に答えたりする。 <p><u>2. Small Talk</u></p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT が行うやり取りを見て、内容を理解し、「食べたいものや食べたくないもの」についてやり取りをする。 <p><u>3. Activity</u></p> <p>①Chants</p> <p>②HRT と ALT のやり取りを見て本時の活動を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>TASK 仲間のやりたいことを聞いて、おすすめの国を伝え合おう。</p> </div> <p>③前時の振り返りを確認し、本時の自己重点課題を考える。</p> <p>④ペアでやり取りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: I want to eat delicious food. B: OK. Please visit Italy. You can eat tiramisu, pasta and pizza in Italy. A: I see. Thank you.</p> </div> <p>⑤中間コメント</p> <p>⑥ペアを変えてやり取りする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: I want to eat delicious food. B: Anything else? A: I want to watch sports. B: What food do you like? A: I like sweet foods. B: OK. Please visit Italy or Spain. You can eat tiramisu, pasta and pizza in Italy. You can watch soccer in Spain. A: I see. Thank you.</p> </div> <p>⑦ペアで話を聞いて行きたくない場所を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Where do you want to go? B: I want to go to France because I can eat delicious food.</p> </div> <p>⑧Let's write 話をした内容を教科書にまとめる。</p> <p><u>4. Comment Time</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをプリントに書く。 「仲間がしたいことや食べたいものをもとに、どこの国を紹介したら相手が喜んでくれるか考えることができた。」 「紹介された国を聞いて、やってみたい、食べてみたいと思えることが増え、行ってみたいなど思った。」 HRT や ALT、児童のコメントを聞く。 	<p>指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べたいものについて “What do you want to eat?” や “I want~.” などの既習表現を使って、児童を巻き込みながらやり取りを紹介する。 HRT と ALT がやりたいことや食べたいものなどを伝え合い、おすすめの国を紹介する様子を紹介し、本時の TASK につなげる。 【研究内容2】 中間コメントでは、分からない言葉がないかや単語だけで話をしていないかを確認し、正しい表現について共通理解を図る。また、相手がしたいことに合わせて国を紹介している児童を取り上げ価値付ける。そうすることで、本時のねらいに迫ることができるようにする。また、ALT とモデルを示し、仲間がもっと行ってみたいと思えるように、より詳しく紹介することができるようにする。 【研究内容3】 授業支援アプリで国名や動詞の音声データを配付し、いつでも振り返ることができるようにする。 ALT は、おすすめの国の魅力を、want を使って話したり、聞いたことを繰り返したりしている児童を価値付ける。 HRT は、相手の好みや要望をもとに、おすすめの国を詳しく紹介できていた児童を、価値付ける。 【研究内容3】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめした国でできる魅力的なことを即興的に伝え合っている。 <話すこと(やり取り) 思・判・表>行動観察</p> </div>

1. 単元名 「 Lesson5 Where do you want to go? 」

2. 学習到達目標

場 所：6年2組教室

聞くこと

ゆっくりはっきり話されれば、自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、
・聞き取りにくかったときに繰り返しを求めながら、相手の考えや気持ち、事実等の具体的な情報を聞き取ることができる。
・大切な言葉を手がかりにしながら、話の概要を捉えることができる。

話すこと【やり取り】

自分や相手のこと、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、既習表現を用いて即興的に質問したり質問に答えたりすることができる。

3. 単元の目標

仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その国の魅力的なことについて伝え合うことができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語科の目標の話すこと【やり取り】イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」を中心に指導するものである。

本単元では、国を題材として扱う。児童はこれまでの単元を通して、国名などの語彙や、したいこと・したくないことの表現、できること・できないことの表現には慣れ親しんでいる。本単元では、仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、“What do you want to do?”と尋ね、それをもとに“You can～”などの表現を用いて、おすすめする国の魅力を伝えることをねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、自分のしたいことやしたくないことを伝えたり、好みや要望に応じたおすすめの本を選択し考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

これまで、英語の時間には、単元で学んだ表現を使って、相手や場面に応じて伝えたいことを表現しようとする姿が見られた。

児童に行ったアンケートでは、「ALTと話をしたり、ALTの話の聞いたりすることは楽しいですか。」という質問に対し、82%の児童が、「とてもそう思う。」「まあまあそう思う。」と答えている。一方で、「英語でどのように言えばよいか分からないことがある。」と答えた児童は、63%いた。単位時間あたりの技能の定着が充分でないこと、既習内容を活用する場面を意図的に設定できていないことが原因ではないかと考えられる。

そこで、本単元では、既習表現や本時活用する英語表現をいつでも振り返ることができるように ICT 機器を活用したり、会話の場面を繰り返し設定し、中間コメントで児童の困り感を共有したりすることを通して、技能の定着を図り、児童が自信をもって会話することができるようにしていきたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「仲間の好みに合ったおすすめの本を紹介するために、“What do you want to do?”と尋ね、それをもとに“You can～”などの表現を用いて、おすすめする国の魅力を伝えている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元は8時間で構成する。第1時では、国名の言い方や行きたい国を伝える表現を知るための活動を行う。第2時と第3時では、自分の行きたい国とそこでしたいことを言えるようにする。第4時と第5時では、自分の行きたい国とそこでできることを言えるようにする。第6時には仲間と自分の行きたい国について伝え合う。第7時には、仲間とやり取りをして好みや要望を聞き出し、おすすめの本を紹介する。単元を通して、繰り返し国名やできること・したいことの表現を用いることで、表現を使いながら定着することができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時の目的は、「仲間の好みや要望に応じたおすすめの本を紹介するにあたって、人気のありそうな国の市場調査をすること。」である。この市場調査を、おすすめできそうな国の調べ学習に役立てる。

【研究内容2—(2)】

実際の海外旅行のパンフレットやホームページなどを提示することで、児童が興味をもって取り組めるようにする。

【研究内容2—(3)】

授業支援アプリで音声データを配付することで、困ったときに、自分で国名や既習表現をいつでも振り返ることができるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

ねらいに迫るために、中間コメントでは、行きたい国やその国でしたいことについて正しく言えている児童を価値付け、全体に広める。中間コメントの時間以外にも、個人や全体に随時指導をする。

【研究内容3—(2)】

振り返りシートの活用に重点を置く。各単位時間に、「自分ができたこと」「単元のゴールに向けてもっとできるようになるべきこと」を書き、自己の成果と課題を明らかにできるようにする。また、授業支援アプリを使って、自分の話す様子を動画で残し、振り返ることができるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
Where do you want to go? I want to [go/see/watch/eat/buy/visit]~. You can [see/watch/eat/buy/visit]~. Why?	国名: Finland, Italy, Kenya, China, Korea, the U.S.A., the U.K., Brazil, Australia, Egypt, Sweden, India... 世界遺産: Iguazu Falls, the Colosseum, Easter Island...

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞く(1)	・行きたい国や、そこでしたいこと・できることを伝える表現について理解している。	・仲間のことをよく知るために、行きたい国とその理由について、短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、概要を捉えたりしている。	/
話す(1)(やり取り)(2)	・上記の表現や既習表現を用いて、おすすめの本国の魅力を伝え合う技能を身に付けている。	・仲間の好みに合ったおすすめの本国を紹介するために、それぞれの国の魅力的なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	

8. 単元指導計画

Goal: 仲間の好みや要望に合わせて、観光するのにおすすめの国を紹介しよう。

時	目標	Teachers' Topic / Small Talk ----- 主な活動における児童の発話例	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠: 記録に残す評価を行う
1	世界の様々な国の言い方や行きたい国を伝える表現を理解することができる。	HRTとALTの行きたい国やしたいことについて ※主な言語材料 Where do you want to go? I want to [go/see/watch/eat/buy/visit]~. You can [see/watch/eat/buy/visit]~.	◎			世界の様々な国の言い方や行きたい国を伝える表現を理解している。 【聞くこと 知・技】 振り返り・行動観察
2	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを伝え合う表現を理解することができる。	買いたいものについて A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: Why? B: Because I want to eat delicious pizza. A: Sounds good.	○			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを伝え合う表現を理解している。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察
3 本時	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりすることができる。	週末にしたいことについて A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: What do you want to do? B: I want to eat delicious pizza. I want to see the Colosseum. A: Sounds good. (◎) I want to go to Italy. I want to eat delicious pizza.)	◎			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 授業支援アプリ・行動観察
4	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを伝え合う表現を理解することができる。	家に帰ったらしたいことについて A: I want to go to Italy. B: Why? A: Because you can eat delicious pizza. You can see the Colosseum. Italy is an exciting country. B: Sounds good. I want to eat pizza.	○			行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを伝え合う表現を理解している。 【話すこと(やり取り)知・技】 テキスト・行動観察

時	目標	Teachers' Topic / Small Talk			主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う	
		主な活動における児童の発話例	知 技	思 判 表			
5	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを尋ねたり答えたりすることができる。	訪れてみたい場所について ----- A: I want to go to Italy. B: Why? A: Because you can eat delicious pizza. You can see the Colosseum. Italy is an exciting country. B: Sounds good. I want to eat pizza. (◎ You can eat delicious pizza. You can see the Colosseum.)	○	○	○	行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでできることを尋ねたり答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 授業支援アプリ・行動観察	
6	仲間のことをより詳しく知るために、行きたい国とその国の魅力を伝え合うことができる。	HRTとALTの行きたい国やしたいことについて ----- A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: Why? B: Because I like pizza. I want to eat tomato pizza. I want to see the Colosseum. A: Sounds good.		○	○	仲間のことをより詳しく知るために、行きたい国とその国の魅力を伝え合っている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】 授業支援アプリ・行動観察	
7 6-1	仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめた国でできる魅力的なことを即興的に伝え合うことができる。	食べたいものについて ----- A: I want to eat delicious food. B: Anything else? A: I want to watch sports. B: What food do you like? A: I like sweet foods. B: OK. Please visit Italy or Spain. You can eat tiramisu, pasta and pizza in Italy. You can watch soccer game in Spain. A: I see. Thank you.		◎	○	○	仲間の好みや要望をもとにおすすめの国を紹介する活動を通して、おすすめた国でできる魅力的なことを即興的に伝え合っている。 【話すこと(やり取り)思・判・表】 行動観察
8	世界遺産について、話の概要を捉えたり読んだりして、世界と日本の文化の理解を深めることができる。	ALTの国の世界遺産について -----	○			世界遺産について、話の概要を捉えたり読んだりして、世界と日本の文化の理解を深めている。 【聞くこと 知・技】 テキスト・行動観察	

9. 単元における本時の捉え

本時は、行きたい国とそこでしたいことを伝え合う活動を行う。行きたい国とそこでしたいこと伝え合うことで、仲間がどんな国に行きたいと考えているか傾向をつかみ、単元終末のおすすめの国の紹介につながるようにする。

10. 本時の目標 (3/8)

行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援
<p>1. <u>Greeting</u></p> <ul style="list-style-type: none"> English leader を中心に HRT や ALT と挨拶をしたり、曜日、日にち、天気等についての質問に答えたりする。 <p>2. <u>Small Talk</u></p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT が行うやり取りを見て、内容を理解し、「週末にしたいこと」についてやり取りをする。 <p>3. <u>Activity</u></p> <p>①Chants</p> <p>②Let's Play3 ステレオゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 2人の出題者が同時に話した内容を聞き取るゲームに取り組む。 <p>③HRT と ALT のやり取りを見て、本時の活動を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>TASK 行きたい国やそこでしたいことを伝え合おう。</p> </div> <p>④前時の振り返りを確認し、本時の自己重点課題を考える。</p> <p>⑤ペアでやり取りをする。</p> <p>⑥中間コメント</p> <p>⑦ペアを変えてやり取りする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: Where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: What do you want to do? B: I want to eat delicious pizza. I want to see the Colosseum. A: Sounds good.</p> </div> <p>⑧Let's Listen and Read1</p> <p>⑨Let's Write1</p> <p>4. <u>Comment Time</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをプリントに書く。 「前の時間は、国の名前がすらすら言えなかったけれど、言えるようになった。自分がしたいことは1つ言えたけれど、たくさんは言えなかったので、自分がしてみたいことに合う国を紹介してもらえるように、もっとたくさん言えるようになりたい。」 HRT や ALT、児童のコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> “What do you want to do?” や “I want to～.” などの既習表現を使って、週末にしたいことについて、児童を巻き込みながらやり取りを紹介する。 HRT と ALT が行きたい国としたいことを伝え合う様子を紹介し、本時の TASK につなげる。 <div style="text-align: right;">【研究内容2】</div> 中間コメントでは、動詞や want の抜けがないか、単語だけで話していないかの確認をする。正しく言っている児童や、相手の言っていることを復唱している児童を紹介し、その姿を広める。中間コメントの時間以外にも、個別に声をかけ、ねらいに迫ることができるようにする。 <div style="text-align: right;">【研究内容3】</div> 授業支援アプリで国名や動詞の音声データを配付し、いつでも振り返ることができるようにする。 ALT は、動詞や want の抜けがなく、文章で話すことができていた児童を紹介し、価値付ける。 HRT は、行きたい国でしたいことをたくさん伝えていた児童を価値付ける。また、どんな国に行きたいと考えていた児童が多かったか確かめ、単元終末のおすすめの国紹介につながるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の評価規準】 行きたい国を伝え合う活動を通して、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりしている。 <話すこと(やり取り)知・技> 授業支援アプリ・行動観察</p> </div>

1. 単元名 「リースをつくろう」

場 所：ほほえみ1組教室

2. 学習到達目標

聞くこと

ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手がかりとして、簡単な語句や基本的な表現の意味を捉えることができる。

話すこと [やり取り]

簡単な挨拶や好きなこと、欲しいものについて、自分の考えや気持ちなどを、サポートを受けながら、はっきりとした声で動作を交えて伝えることができる。

3. 単元の目標

自分の好みのリースを作るために、欲しい色や欲しい形の飾りについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりすることができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元は、外国語活動の目標の話すこと [やり取り] ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」につながる指導をするものである。

本単元では、色や形を題材として扱う。児童はこれまでの単元を通して数や色、果物などの語彙や、“What ~ do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんできている。自分のオリジナルリースを作るために、欲しい色や形について、1、2年生は“What shape do you want?” “What color do you want?” “I want ~.”、3年生は“What do you want?” “I want ~.”などの表現を用いて、色や形を伝え合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、店員は、どの色や形が欲しいか尋ねたり、客は、自分の好みの色や形を選択し考えながら話したりすることができるようにする。

また、生活単元学習「リースをつくろう」とも関連付けて指導していく。

<児童観>

本クラスは、1年生1名、2年生1名、3年生3名の計5名が在籍している。英語の時間には、てくてくじゃんけんやゲームなどの活動を通して、ほとんどの児童が意欲的に取り組むことができている。しかし、仲間とやり取りする場面では、表現を使って自信をもって尋ねたり答えたりすることに苦手意識をもっている児童もいる。

1年生の児童は、英語での挨拶や気分の表現、数の言い方などに慣れ親しんできている。

2年生の児童は、色や形、果物などの語彙や、“What ~ do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんできている。

3年生の児童は、色や形、果物などの語彙や、“What do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんできている。

そこで、本単元では、既習表現を活用して、やり取りする場面を繰り返し設定し、自信をもって尋ねたり答えたりできるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「自分のオリジナルリースを作るために、欲しい色や欲しい形の飾りについて、“What shape do you want?” “What color do you want?” “What do you want?” “I want ~.”などの表現を用いて、尋ねたり答えたりしている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を4時間で構成する。第1時では、単元の終末に「自分のオリジナルリース」を作ることを伝え、どのようなリースにしたいかを考える。第2時と第3時では、色や形の言い方に慣れることができる活動を設定する。第4時では、それらの語彙や表現を使って、自分の欲しい色や欲しい形の飾りを集める活動を行う。

単元を通して、色や形の名前を繰り返し、欲しい色や欲しい形の飾りを集めるために必要な表現に親しむことで、色や形の名前を尋ねたり答えたりすることができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

【研究内容2—(1)】

本時は、生活単元「リースをつくろう」と関連付けながら、「自分のオリジナルリース」を作るための飾りを集めるという活動を設定する。TASKを意識して活動に取り組むことができるように、スキットの中で、「自分のオリジナルリース」に合わせて買い物に向かうことができるようにする。

【研究内容2—(2)】

本時では、事前に作成した自分のリースに、「ダイヤモンド」、「星」、「ハート」の様々な色の飾りを集める活動を行う。活動を通して、第1時で考えた「自分のオリジナルリース」を振り返りながら、児童が自分の思いを明確にして伝え合うことができるようにする。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、「どうしてその色や形の飾りを集めたのか」を児童に確認し、第1時で考えた「自分のオリジナルリース」を考えながら集めている児童を価値付け、全体へ広める。また、実際にリースに集めた飾りを置いてみて、さらにどんな飾りを集めればよいか考える。そうすることで、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末コメントでは、「自分のオリジナルリース」を作るために、欲しい色や欲しい形の飾りを集めることができたかを児童同士や全体で確認し、本時の学びを実感できるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What shape do you want? (1・2年) What color do you want? (1・2年) What do you want? (3年) I want ~.	形 : diamond, star, heart 色 : red, blue, yellow, pink, green

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・色や形の名前や“What shape do you want?”“What color do you want?”“What do you want?”“I want ~.”について理解している。 ・欲しい色や欲しい形の飾りについて、上記の表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。	・欲しい色や欲しい形の飾りを集めるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、尋ねたり答えたりしている。	・欲しい色や欲しい形の飾りを集めるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、尋ねたり答えたりしようとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 「オリジナルリース」を作るために、自分の欲しい色や、欲しい形の飾りを集めよう。

時	目標	Teachers' Topic	知技	思判表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	形を題材とした活動を通して、形の名前の表現に親しみ、それらが表すものを理解したり、真似て言ったりすることができる。	外国のオリジナルリース紹介 S: What's this? T: Diamond. S: Diamond, diamond, diamond, diamond.	○			A~C: 形の名前の言い方を教師の英語の発音を聞いて、サポートを受けながら、真似て覚えている。 D・E: 形の名前の言い方を教師の英語の発音を聞いて、真似て覚えている。 【聞くこと 知・技】行動観察
2	色や形を題材とした活動を通して、色や形の名前の表現に親しみ、色や形の名前を聞き取ったり、真似て言ったりすることができる。	形のシルエットクイズ S: What shape do you want? T: I want a diamond. S: Diamond, diamond, diamond, diamond. S: What color do you want? T: I want red. S: Red, red, red, red.	○			A~C: 色や形の名前の言い方を覚えて、教師の英語の発音を聞き、真似して言っている。 D・E: 色や形の名前の言い方を覚えて、明瞭な発音で言っている。 【話すこと(やり取り) 知・技】行動観察
3	「様々な色や形を集める活動(ビンゴゲーム)」を通して、色や形の名前の表現に親しみ、どの色や形が欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	色・形探しクイズ (1・2年生) S1: What shape do you want? S2: I want a diamond, please. S1: OK. What color do you want? S2: I want red, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you. (3年生) S1: What do you want? S2: I want a red diamond, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you.	○		○	A : 欲しい色や欲しい形の名前を、“I want ~.”を使って答える技能を身に付けている。 B : 欲しい色や欲しい形の名前を、“I want ~.”を使って答えたり、“What shape do you want?” “What color do you want?”を使って尋ねたりする技能を身に付けている。 C : 欲しい色や欲しい形の名前を、“I want ~.”を使って答えたり、サポートを受けながら、“What do you want?”を使って尋ねたりする技能を身に付けている。 D・E: 欲しい色や欲しい形の名前を、“I want ~.”を使って答えたり、“What do you want?”を使って尋ねたりする技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り) 知・技】行動観察
4 本時	「自分のオリジナルリースを作るために、自分の欲しい色や欲しい形の飾りを集める活動」を通して、色や形の名前の表現に親しみ、どの色やどの形の飾りが欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。	教師の作りたいオリジナルリースの紹介 (1・2年生) S1: What shape do you want? S2: I want a diamond, please. S1: OK. What color do you want? S2: I want red, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you. (3年生) S1: What do you want? S2: I want a red diamond, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you.			◎	A : 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を“I want ~.”を使って答えている。 B : 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を“What shape do you want?” “What color do you want?”を使って尋ねたり、“I want ~.”を使って答えたりしている。 C : 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を“I want ~.”を使って答えている。また、サポートを受けながら、“What do you want?”を使って尋ねている。 D・E: 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を“What do you want?”を使って尋ねたり、“I want ~.”を使って答えたりしている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】作品・行動観察

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに行った学習をもとに、自分のオリジナルリースを作るために様々な色や形の飾りを集める活動を行う。客は自分の好みの色や、形の飾りがあるかを尋ねて集めたり、店員は自分の店にある飾りを答えたりして、主体的にやり取りできる姿を目指す。

10. 本時の目標 (4/4)

「自分のオリジナルリースを作るために、自分の欲しい色や欲しい形の飾りを集める活動」を通して、色や形の名前の表現に親しみ、どの色やどの形の飾りが欲しいか尋ねたり答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援				
	A (1年)	B (2年)	C (3年)	D (3年)	E (3年)
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> 「てくてくじゃんけん」を歌って、元気に挨拶をする。 天気や曜日についての質問に答える。 					
<p>2. Teachers' Topic</p> <ul style="list-style-type: none"> やり取りを見て、本時の TASK をつかむ。 					
<p>TASK 「オリジナルリース」をつくるために、じぶんのほしいいろや、ほしいかたちのかざりをあつめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師の作りたい「自分のオリジナルリース」を示し、それを見ながら欲しい色や欲しい形の飾りを集めに行く姿を見せることで、本時の TASK につなげるようにする。 【研究内容2】 				
<p>3. Activity</p> <p>①オリジナルリースの確認</p> <p>②やり取り (1) B・D・E 客役 A・C 店員役</p> <p>③やり取り (2) B・D・E 店員役 A・C 客役</p> <p>④中間コメント</p> <p>⑤やり取り (3) B・D・E 客役 A・C 店員役</p> <p>⑥やり取り (4) B・D・E 店員役 A・C 客役</p> <p>⑦配置し写真を撮る</p>					
<p>【S1: Shopkeeper S2: Customer】 (1・2年生)</p> <p>S1: What shape do you want? S2: I want a diamond, please. S1: OK. What color do you want? S2: I want red, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you.</p> <p>(3年生)</p> <p>S1: What do you want? S2: I want a red diamond, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you.</p> <p>《色や飾りの言い方が分からなかったとき》</p> <p>S1: What shape do you want? S2: Help me. T: Diamond. S2: Thank you. Diamond, diamond, diamond. I want a diamond, please. S1: OK. Here you are. S2: Thank you. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欲しい色や、形について「I want ~」を使って答えられるように助言をする。 自信をもって取りよる時に、声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「What shape do you want?」や「What color do you want?」「I want ~」を使ってやり取りができるように助言をする。 自信をもって活動に取り組めるように、話すスピードや目線を意識して丁寧に話していることを見届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「What do you want?」や「I want ~」を使ってやり取りができるように助言をする。 自信をもって活動に取り組めるように、即時評価や声掛けを行う。 発音が不明瞭な所は、声掛けをして正しい発音を意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「What do you want?」や「I want ~」を使ってやり取りができるように助言をする。 相手に伝わるように、話すスピードや目線を意識して丁寧に話していることを見届ける。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 中間コメントでは、児童に「どうしてその色や形の飾りを集めたのか」を確認し、自分のオリジナルリースを考えながら飾りを集めていることを価値付ける。また、実際にリースに集めた飾りを置いてみて、さらにどんな飾りを集めればよいか考える。そうすることで本時の TASK を再認識できるようにする。 【研究内容3】 後日、生活単元学習で飾りをつけるため、本時の活動では配置を決め写真を撮るまでを行う。 自分のオリジナルリースを作るために、欲しい色や欲しい形の飾りを集めることができたかを全体で確認し価値付けることで、本時の学びが実感できるようにする。 正しい表現を使って、欲しい色や欲しい形の飾りを尋ねたり答えたりしていた児童を紹介し、価値付ける。 【研究内容3】 				
<p>4. Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートにコメントを書く。 児童や教師のコメントを聞く。 <p>「自分の欲しい色や欲しい形の飾りを集めることができた。」</p>	<p>【本時の評価規準】 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を「I want ~」を使って答えている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】</p>	<p>【本時の評価規準】 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を「What shape do you want?」「What color do you want?」を使って尋ねたり、「I want ~」を使って答えている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】</p>	<p>【本時の評価規準】 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を「I want ~」を使って答えている。また、サポートを受けながら、「What do you want?」を使って尋ねている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】</p>	<p>【本時の評価規準】 自分のオリジナルリースに合わせて、欲しい色や欲しい形の名前を「What do you want?」を使って尋ねたり、「I want ~」を使って答えている。 【話すこと(やり取り) 思・判・表】</p>	

1. 単元名 「Unit 7 What do you want?」

場 所：ほほえみ2組教室

2. 学習到達目標

聞くこと

ゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、話されているおおよその内容を捉えることができる。

話すこと [やり取り]

自分のことや相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、はっきりとした声で動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりすることができる。

3. 単元の目標

自分の好みに合ったパフェを作るために、欲しい果物の名前や数について、簡単な語句や基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりし、作ったパフェを仲間に紹介することができる。

4. 単元について

<教材観>

本単元では、外国語活動の目標の話すこと[やり取り]ウ「サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。」を中心に指導するものである。

本単元では、果物を題材として扱う。児童は、これまでの単元を通して色や形、果物や野菜などの語彙や、“What do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんできている。自分の好みに合うパフェを作るために、欲しい食材について、“What do you want?” “I want ~.”などの表現を用いてやり取りし、作ったパフェやその特徴を伝え合う姿をねらいとしている。今までに学習してきた表現を活用しながら、店員は欲しいものや数を尋ねたり、客は、自分の好みの食材を選択し、考えながら話したりすることができるようにする。

<児童観>

本クラスは、4年生2名、6年生2名の計4名が在籍している。英語の時間には、ゲームや Chants などの活動を楽しみ、身近な果物や野菜の名前、簡単な語句や基本的な表現を用いて、仲間とやり取りすることに慣れ親しみ、意欲的に取り組むことができてきている。しかし、仲間とやり取りをする場面では、自分の思いを英語で表現することが難しく、苦手意識をもっている児童もいる。

4年生の児童は、英語での挨拶や自分の名前の言い方、感情などを英語で表現することに慣れ親しんできた。

6年生の児童は、色や形、果物などの語彙や、“What do you want?” “I want ~.”の表現に慣れ親しんできた。

そこで、本単元では、既習表現を活用して、文章で話す場面を繰り返し設定したり、活動の中で児童の困り感を共有したりすることを通して、どの児童も自信をもって会話ができるようにしたい。

5. 研究内容について<指導観>

1. 目指す姿を明確にした学習到達目標

標の設定と単元指導計画の改善

【研究内容1—(1)】

本単元の終末における願う児童の姿は、「自分の好みに合ったパフェを作るために、欲しい食材の名前や数について、“What do you want?” “I want ~.”などの表現を用いて、尋ねたり答えたりしている。」である。

【研究内容1—(2)】

本単元を5時間で構成する。第1時と第2時では、どのような食材があるかを考えたり、アクティビティを通して表現に親しんだりする。第3時では、自分の好みに合うパフェの構想を考え、第4時では、学習した語彙や表現を使ってパフェを作る。第5時では、味の表現を練習して、自分のパフェの味を相手に伝える活動をする。

単元を通して、繰り返し果物の名前や果物を集めるために必要な表現に親しむことで、果物の名前を尋ねたり答えたりすることができるようにする。

2. 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

語活動の充実

【研究内容2—(1)】

「自分の好みに合ったパフェを作る。」という活動を設定する。TASKを意識して活動に取り組めるように、スキットの示し方を工夫する。その中で、第4時では、「自分の好みに合うパフェ」を作るという活動を設定することで、目的意識をもてるようにする。

【研究内容2—(2)】

本単元では、果物の種類だけでなく、自分の好みに合うように、数を言語材料として扱うことで、自分の好きな果物は多く入れるなど、児童の工夫点や思いを明確にして伝えることができるようにする。

【研究内容2—(3)】

自分の好みに合うパフェを作るために、デジタル教材を使用する。この教材を使用することで、果物の数や大きさ、配置も変えることができ、自分の好みを丁寧に表現することができる。また、ALTの音声を録音し、分からない単語を聞けるように準備しておく。

3. 学習改善や指導改善につながる

学習評価

【研究内容3—(1)】

中間コメントでは、“What do you want?” “I want ~.”の表現を正しく話している児童を価値付け、全体へ広める。そうすることで、本時のTASKを再認識できるようにする。

【研究内容3—(2)】

終末のコメントの時にも、それぞれの好みに合った果物を買うことができたかを児童同士や全体で確認し、本時の学びを実感できるようにする。

6. 主な言語材料

身に付けたい表現	その他の言語材料
What do you want? I want (melons), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you. This is ~. It's ~.	果物 : melons, peaches, bananas, apples, cherries, oranges, pineapples, strawberries, kiwi fruits その他 : ice cream 形容詞 : delicious, yummy, sweet, colorful, healthy, big, small, left, right, up, down, turn 数 : one, two, three

7. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> 果物の名前や “What do you want?” “I want ~.”について理解している。 欲しい果物について、上記の表現や既習表現などを用いて欲しい物や数などを伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好みに合ったパフェを作って、紹介するために、欲しい物や数について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好みに合ったパフェを作って、紹介したりするために欲しい物や数について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

8. 単元指導計画

Goal: 「オリジナルパフェ」を紹介しよう。

時	目標	Teachers' Topic	知 技	思 判 表	主	評価規準【評価方法】 ※太枠：記録に残す評価を行う
		主な活動における児童の発話例				
1	「Heads up ゲーム」や「ピ ンゴゲーム」を通して、果物 の表現に親しみ、果物の名前 を聞き取ったり、真似をして 言ったりすることができる。	フルーツクイズ S1: What do you want? S2: I want melons, please.	○			A・B：果物の名前の言い 方を教師の英語の発音を 聞いて理解している。 C・D：様々な果物につい て、英語で正しく聞き取る ことができている。 【聞くこと 知・技】 行動観察
2	外国の市場の様子を視聴 し、日本の市場と比べながら、 相違点に気付くとともに、ゲ ームを通して果物の名前や数 の言い方に親しみ、果物や数 の表現を正しく聞き取るこ とができる。	日本と海外の市場を見てみよう S1: What do you want? S2: I want melons, please. S1: How many? S2: Two, please.	○			A・B：支援を受けて、自 分の欲しい果物を英語で 伝えている。 C・D：欲しい果物の名前 を、“I want ~.” を使って 答えたり、“What do you want?” を使って尋ねたり している。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察
3	自分の好みに合うパフェを 作るために、必要な材料を集 める活動を通して、相手が欲 しいものを尋ねたり、答えたり することができる。	世界のフルーツ S1: What do you want? S2: I want melons, please. S1: How many? S2: Three, please. S1: Big or small? S2: Big, please.	○			A・B：表現を使って欲し い果物を伝えている。 C・D：欲しい果物などの 種類と数、大きさを尋ねたり 答えたりしている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察

<p>4 本時</p>	<p>自分の好みに合うパフェを作るために “What do you want?” “I want melons.” などの表現を使って尋ねたり答えたりすることができる。</p>	<p>教師のパフェ ----- S1: What do you want? S2: I want melons. S1: How many? S2: Two, please. S1: One, two... Here you are. S2: Thank you, see you.</p>	<p>◎</p>	<p>○</p>	<p>A・B: 支援を受けながら、自分の好みに合うパフェを作るために、食材や数を尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 C・D: 自分の好みに合うパフェを作るために、必要な食材や数を尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り)知・技】 ワークシート・行動観察・作品</p>
<p>5</p>	<p>自分の好みに合ったパフェについて、果物の数や味の表現を使いながら詳しく紹介することができる。</p>	<p>教師のパフェの説明 ----- This is my special parfait. I have three big strawberries and, two bananas. It's juicy and delicious.</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>A・B: 支援を受けながら、使った果物や味などを紹介している。 C・D: 使った果物や味などを紹介している。 【話すこと(発表)思・判・表】 ワークシート・行動観察</p>

9. 単元における本時の捉え

本時は、前時までに行った学習をもとに、自分の好みに合うパフェを作るために様々な材料を集める活動を行う。客は自分の好みの果物があるかを尋ねて集めたり、店員はどの果物が欲しいか聞いたり、客は自分が欲しい果物を伝えたりして、主体的にやり取りできる姿を目指す。

10. 本時の目標 (4/5)

自分の好みに合うパフェを作るために “What do you want?” “I want melons.” などの表現を使って尋ねたり答えたりすることができる。

11. 本時の展開

学習展開	指導・支援			
	A (4年)	B (4年)	C (6年)	D (6年)
1. Greeting ・元気に挨拶や Chants をする。 ・天気や曜日についての質問に答える。				
2. Teacher's Topic ・やり取りを見て、本時の TASK をつかむ。	・教師の作りたい「自分のオリジナルパフェ」を示し、それを見ながら、欲しい果物やアイスクリームを買いに行く姿を示すことで、本時の TASK につなげるようにする。 【研究内容2】			
TASK 自分の好みに合うオリジナルパフェを作ろう。				
3. Activity ①やり取り (1) A・B 客役 C・D 店役 ②やり取り (2) A・B 店役 C・D 客役 ③中間コメント ④やり取り (3) A・B 客役 C・D 店役 ⑤やり取り (4) A・B 店役 C・D 客役 ⑥大きさや位置を直す	・前時に作成した児童のパフェの構想を見ながら、単語を確認する。 ・単語や表現が分からなくなった場合は、タブレットを使って確認したり、教師に支援を求めたりするよう、声をかける。 ・欲しい果物や食材を英語で答えられるよう、支援をする。 ・自分の思いや考えを伝えられるように、定期的に声掛けをする。 ・発音が不明瞭な時は、声をかけ、正しい発音を意識しながら話すように、声をかける。 ・相手に伝わりやすい話し方、スピード、目線を意識しながら話すことができるか、見届ける。 ・本時の活動の見通しがもてるよう、活動の流れを細かく伝えたり、分からないことは、すぐに確認できたりする準備をしておく。 ・既習表現をいつでも確認できるように、タブレットに準備しておく。 ・相手に伝わりやすい話し方、スピード、目線を意識しながら話すことができるか、見届ける。			
【S1: Shopkeeper S2: Customer】 S1: Hello. What do you want? S2: I want melons, please. S1: OK. How many? S2: Two, please. S1: One, two. Here you are. S2: Thank you. See you. S1: See you.	・本時の TASK を再認識できるように、中間コメントでは、自分の好みに合わせて果物を集めている児童に「どうしてその材料を使ったのか」を聞き、自分の好みを考えながら作っていることを価値付ける。 【研究内容3】 ・本時の学びが実感できるように、自分の好みにあったパフェを作ることができたかを全体で確認する。 【研究内容3】			
4. Comment Time ・自分の好きな食材を集めてパフェを作ることができたか、全体で確かめる。 「自分の好きな食材を集めたパフェを作ることができた。」 ・児童や教師のコメントを聞き、ふり返りをする。	【本時の評価規準】 ・支援を受けながら、自分の好みに合うパフェを作るために、食材や数を尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り)知・技】	【本時の評価規準】 ・自分の好みに合うパフェを作るために、必要な食材や数を尋ねたり答えたりして、伝え合う技能を身に付けている。 【話すこと(やり取り)知・技】		